

4. 鳥類調査結果

4. 鳥類調査

4.1 鳥類調査結果の概要

河川水辺の国勢調査の鳥類調査は、1～3 巡目調査である平成 3 年度(1991 年度)から 17 年度(2005 年度)までのあいだ、間隔をあけて設定された複数の調査地区を観察するという定点調査法によって実施されてきました。しかし、平成 18 年度(2006 年度)から平成 27 年度(2015 年度)までの 4 巡目調査、平成 28 年度(2016 年度)以降の 5 巡目調査ではマニュアルが改訂され、河口から上流にいたる全調査区間を 1km ピッチもしくは 2km ピッチで連続的に観察するというスポット調査法で実施されるようになりました。これによって、河口から上流にいたるまでの鳥類相を連続的に把握できるようになりました。

(1) 確認種

今回とりまとめを行った一級河川 9 水系 9 河川（8 河川の直轄管理区間および 1 河川の指定区間）で確認された鳥類は、18 目 55 科 241 種でした。

確認種数の多かった河川は、北海道の石狩川の 169 種、東北地方の北上川の 148 種、九州地方の菊池川の 129 種などでした。

(2) 重要種

今回とりまとめを行った一級河川 9 水系 9 河川（8 河川の直轄管理区間および 1 河川の指定区間）で確認された重要種は合計 47 種でした。そのうち、環境省版レッドリストで絶滅危惧 I A 類に指定されている種はシジュウカラガンとコウノトリの 2 種、絶滅危惧 I B 類に指定されている種はヒメウ、クロツラヘラサギ、シマクイナ、チュウヒ、クマタカ、ヤイロチョウ、アカモズ、オオセッカの合計 8 種でした。

確認された重要種の種数が多かった河川は、北海道の石狩川と東北地方の北上川の 25 種、九州地方の菊池川の 20 種、四国地方の（渡川水系）四万十川の 15 種などでした。

注 1) 重要種について

本資料においては、次の文献のいずれかに該当する種や亜種を重要種としました。

- 「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物。
 - 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種および緊急指定種。
 - 「環境省版レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）」（環境省レッドリスト 2020：令和 2 年 3 月 27 日報道発表資料）。
- | | |
|----------------|--------------------------------------------------|
| 絶滅 | ：我が国ではすでに絶滅したと考えられる種。 |
| 野生絶滅 | ：飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種。 |
| 絶滅危惧 I A 類 | ：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。 |
| 絶滅危惧 I B 類 | ：I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。 |
| 絶滅危惧 II 類 | ：絶滅の危険が増大している種。 |
| 準絶滅危惧 | ：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種。 |
| 情報不足 | ：評価するだけの情報が不足している種。 |
| 絶滅のおそれのある地域個体群 | ：地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。 |

(3) 国外外来種

1) 国外外来種の確認状況

今回とりまとめを行った一級河川 9 水系 9 河川（8 河川の直轄管理区間および 1 河川の指定区間）で確認された国外外来種は、コジュケイ、コウライキジ、コブハクチョウ、アヒル、カワラバト(ドバト)、サンジャク、ガビチョウ、ヒゲガビチョウ、ソウシチョウの 9 種でした。このうち、カワラバト(ドバト)は今回とりまとめを行った河川のうち 8 河川で確認されました。

2) 特定外来生物の確認状況

上記の国外外来種のうち、外来生物法が定める特定外来生物は、ガビチョウ、ヒゲガビチョウ、ソウシチョウの 3 種でした。これらの種は生態系被害防止外来種リストの重点対策外来種にも選定されています。

注 2) 国外外来種の選定基準について

- 1) 外来種とは、本来その生物が生息していない地域に貿易や人の移動等を介して意図的・非意図的に導入された種をいいます。外来種のうち、日本国外から持ち込まれた種を「国外外来種」といい、日本国内の種であっても本来その生物が生息していない地域に、他の場所から持ち込まれた種は「国内外来種」といいます。本資料における国外外来種とは、おおむね明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物すべてを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、選定の際に考慮していません。
- 2) 特定外来生物とは、『特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(最終改正および施行 令和 7 年 6 月)』により、輸入や飼養等が規制される生物(生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれる)です。おおむね明治以降に国外から導入された国外外来種のうち、生態系、人の生命・身体および農林水産業へ被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがある生物が指定されています。
- 3) 総合対策外来種は、「国内に定着が確認されているもの。生態系等への被害のおそれがあるため、国、地方公共団体、国民など各主体がそれぞれの役割において、防除(野外での取り除き、分布拡大の防止等)、遺棄・導入・逸出防止等のための普及啓発など総合的に対策が必要な外来種」として選定されています。以下の 3 つに細分化されています。
 - (i) 緊急対策外来種
「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方にに基づき、被害の深刻度に関する基準^{*1}として①～④のいずれかに該当することに加え、対策の実効性、実行可能性として⑤に該当する種。特に緊急性が高く、特に、各主体がそれぞれの役割において、積極的に防除を行う必要がある。
 - (ii) 重点対策外来種
「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方にに基づき、被害の深刻度に関する基準^{*1}として①～④のいずれかに該当する種。甚大な被害が予想されるため、特に、各主体のそれぞれの役割における対策の必要性が高い。
 - (iii) その他の総合対策外来種

*1 緊急対策外来種、重点対策外来種における対策の優先度の考え方

(被害の深刻度に関する基準)

- ①生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大
- ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い
- ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い
- ④人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して甚大な被害を及ぼす
(対策の実効性、実行可能性)
- ⑤防除手法が開発されている、または開発される見込みがある等、一定程度の知見があり、対策の目標を立て得る

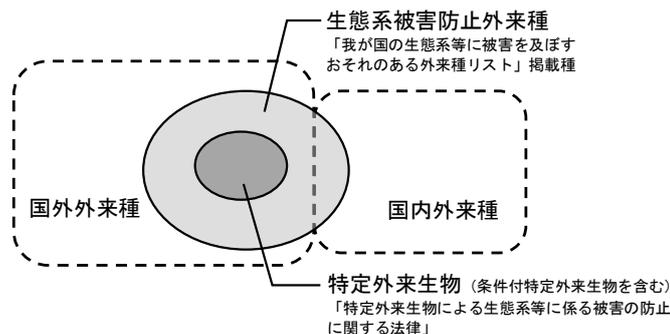


図 4-1 (参考) 国外外来種、国内外来種、生態系被害防止外来種、特定外来生物の関係

表 4-1 確認種一覧（鳥類） (1/9)

No.	目名	科名	種名	学名	北海道	東北		関東	北陸	近畿	中国	四国	九州	確認河川数	指標性	
					石狩川	馬淵川	北上川	那珂川	常願寺川	(大和川水系) 初瀬川他△	日野川	(渡川水系) 四万十川	菊池川			
1	キジ目	キジ科	ウズラ	<i>Coturnix japonica</i>	●									1	草原	
2			コジュケイ	<i>Bambusicola thoracicus</i>			●	●				●	●	4	樹林性	
3			キジ	<i>Phasianus colchicus</i>			●	●	●	●		●	●	●	7	樹林性
-			コウライキジ	<i>Phasianus colchicus karpowi</i>	●										1	樹林性
4	カモ目	カモ科	ヒシクイ	<i>Anser fabalis</i>	●		●							2	湖沼静止水面	
-			オオヒシクイ	<i>Anser fabalis middendorffii</i>	○										1	湖沼静止水面
5			マガン	<i>Anser albifrons</i>	●		●								2	湖沼静止水面
6			シジュウカラガン	<i>Branta hutchinsii</i>			●								1	湖沼静止水面
7			コクガン	<i>Branta bernicla</i>			●								1	海岸
8			コブハクチョウ	<i>Cygnus olor</i>					●						1	湖沼静止水面
9			コハクチョウ	<i>Cygnus columbianus</i>	●		●	●	●		●				5	湖沼静止水面
10			オオハクチョウ	<i>Cygnus cygnus</i>	●	●	●	●	●						4	湖沼静止水面
11			ツクシガモ	<i>Tadorna tadorna</i>										●	1	海岸
12			アカツクシガモ	<i>Tadorna ferruginea</i>										●	1	海岸
13			オシドリ	<i>Aix galericulata</i>	●	●	●	●	●		●	●	●	●	8	河川流水
14			オカヨシガモ	<i>Anas strepera</i>		●	●	●				●	●	●	6	湖沼静止水面
15			ヨシガモ	<i>Anas falcata</i>	●		●	●				●	●	●	6	湖沼静止水面
16			ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>	●	●	●	●				●	●	●	7	河川流水
17			アメリカヒドリ	<i>Anas americana</i>								●			1	河川流水
18			マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>	●	●	●	●	●			●	●	●	8	河川流水
-			アヒル	<i>Anas platyrhynchos var. domesticus</i>			○							○	2	人家周辺
19			カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9	河川流水
20			ハシビロガモ	<i>Anas clypeata</i>	●		●	●		●				●	5	湖沼静止水面
21			オナガガモ	<i>Anas acuta</i>	●	●	●	●				●	●	●	7	湖沼静止水面
22			シマアジ	<i>Anas querquedula</i>	●									●	2	湖沼静止水面
23			トモエガモ	<i>Anas formosa</i>	●		●					●	●	●	5	湖沼静止水面
24			コガモ	<i>Anas crecca</i>	●	●	●	●		●	●	●	●	●	8	河川流水
25			オオホシハジロ	<i>Aythya valisineria</i>		●									1	湖沼静止水面
26			ホシハジロ	<i>Aythya ferina</i>	●	●	●	●				●		●	6	湖沼静止水面
27			キンクロハジロ	<i>Aythya fuligula</i>	●	●	●	●	●			●	●	●	8	湖沼静止水面
28			スズガモ	<i>Aythya marila</i>	●	●	●	●				●		●	6	湖沼静止水面
29			シノリガモ	<i>Histrionicus histrionicus</i>	●	●									2	海岸

表 4-1 確認種一覧 (鳥類) (2/9)

No.	目名	科名	種名	学名	北海道	東北		関東	北陸	近畿	中国	四国	九州	確認河川数	指標性	
					石狩川	馬淵川	北上川	那珂川	常願寺川	(大和川水系) 初瀬川他△	日野川	(渡川水系) 四万十川	菊池川			
30	カモ目	カモ科	クロガモ	<i>Melanitta americana</i>		●	●							2	海岸	
31			コオリガモ	<i>Clangula hyemalis</i>	●										1	海岸
32			ホオジロガモ	<i>Bucephala clangula</i>	●	●	●	●			●				5	海岸
33			ミコアイサ	<i>Mergellus albellus</i>	●	●	●				●				4	湖沼静止水面
34			カワアイサ	<i>Mergus merganser</i>	●	●	●	●	●		●	●			7	河川流水
35			ウミアイサ	<i>Mergus serrator</i>	●	●	●	●			●			●	6	海岸
36	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	●	●	●	●	●		●	●	●	8	湖沼静止水面	
37			アカエリカイツブリ	<i>Podiceps grisegena</i>				●							1	湖沼静止水面
38			カンムリカイツブリ	<i>Podiceps cristatus</i>	●	●	●	●			●	●	●		7	湖沼静止水面
39			ミミカイツブリ	<i>Podiceps auritus</i>				●	●						2	湖沼静止水面
40			ハジロカイツブリ	<i>Podiceps nigricollis</i>	●	●	●	●			●			●	6	湖沼静止水面
41	ハト目	ハト科	カワラバト(ドバト)	<i>Columba livia</i>	●	●	●	●	●		●	●	●	8	人家周辺	
42			キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9	樹林性	
43			アオバト	<i>Treron sieboldii</i>	●				●			●	●		4	樹林性
44	コウノトリ目	コウノトリ科	コウノトリ	<i>Ciconia boyciana</i>				●						1	海岸	
45	カツオドリ目	ウ科	ヒメウ	<i>Phalacrocorax pelagicus</i>				●				●		2	海岸	
46			カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	●	●	●	●	●		●	●	●	8	河川流水	
47			ウミウ	<i>Phalacrocorax capillatus</i>	●			●					●		4	海岸
48	ペリカン目	サギ科	ヨシゴイ	<i>Ixobrychus sinensis</i>			●	●						2	水辺草むら	
49			ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>		●	●	●	●	●	●	●	●		8	砂礫泥地
50			ササゴイ	<i>Butorides striata</i>		●	●		●			●	●		5	砂礫泥地
51			アカガシラサギ	<i>Ardeola bacchus</i>								●			1	水辺草むら
52			アマサギ	<i>Bubulcus ibis</i>				●				●	●		4	水辺草むら
53			アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9	砂礫泥地
54			ダイサギ	<i>Ardea alba</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9	砂礫泥地
55			チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>		●	●	●				●	●	●	6	水辺草むら
56			コサギ	<i>Egretta garzetta</i>	●		●	●	●	●	●	●	●	●	8	砂礫泥地
57			クロサギ	<i>Egretta sacra</i>				●					●		2	海岸
58		トキ科		ヘラサギ	<i>Platalea leucorodia</i>									●	1	海岸
59	クロツラヘラサギ			<i>Platalea minor</i>										●	1	海岸

表 4-1 確認種一覧（鳥類） (3/9)

No.	目名	科名	種名	学名	北海道	東北		関東	北陸	近畿	中国	四国	九州	確認河川数	指標性		
					石狩川	馬淵川	北上川	那珂川	常願寺川	(大和川水系) 初瀬川他△	日野川	(渡川水系) 四万十川	菊池川				
60	ツル目	ツル科	タンチョウ	<i>Grus japonensis</i>	●									1	海岸		
61		クイナ科	シマクイナ	<i>Coturnicops exquisitus</i>			●								1	水辺草むら	
62			クイナ	<i>Rallus aquaticus</i>	●		●								2	水辺草むら	
63			ヒクイナ	<i>Porzana fusca</i>					●				●	●	3	水辺草むら	
64			バン	<i>Gallinula chloropus</i>	●		●	●		●				●	5	水辺草むら	
65			オオバン	<i>Fulica atra</i>	●	●	●	●				●	●	●	7	水辺草むら	
66	カッコウ目	カッコウ科	ジュウイチ	<i>Hierococcyx hyperythrus</i>	●									1	樹林性		
67			ホトトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>		●	●	●	●			●	●	6	樹林性		
68			ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>	●		●		●			●		4	樹林性		
69			カッコウ	<i>Cuculus canorus</i>	●	●	●		●					4	樹林性		
70	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	●									1	樹林性		
71	アマツバメ目	アマツバメ科	ハリオアマツバメ	<i>Hirundapus caudacutus</i>	●									1	樹林性		
72			アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>	●		●	●			●	●	●	6	水辺		
73			ヒメアマツバメ	<i>Apus nipalensis</i>									●		1	人家周辺	
74	チドリ目	チドリ科	タゲリ	<i>Vanellus vanellus</i>				●					●	2	砂礫泥地		
75			ケリ	<i>Vanellus cinereus</i>			●			●			●	3	砂礫泥地		
76			ムナグロ	<i>Pluvialis fulva</i>									●	●	2	砂礫泥地	
77			ハジロコチドリ	<i>Charadrius hiaticula</i>			●								1	砂礫泥地	
78			イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>	●		●	●	●		●	●	●		7	砂礫泥地	
79			コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>	●	●	●	●	●		●	●	●		8	砂礫泥地	
80			シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>			●		●		●	●	●		5	海岸	
81			メダイチドリ	<i>Charadrius mongolus</i>	●						●	●	●		4	海岸	
82			セイタカシギ科	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus</i>	●								●		2	海岸
83			シギ科	ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>	●								●		2	水辺草むら
84		オオジシギ		<i>Gallinago hardwickii</i>	●										1	水辺草むら	
85		チュウジシギ		<i>Gallinago megala</i>									●		1	砂礫泥地	
86		タシギ		<i>Gallinago gallinago</i>	●	●	●				●	●	●		6	砂礫泥地	
87		オオソリハシシギ		<i>Limosa lapponica</i>										●	1	砂礫泥地	
88	チュウシャクシギ	<i>Numenius phaeopus</i>										●	●	2	砂礫泥地		
89	アオアシシギ	<i>Tringa nebularia</i>		●							●		●	3	砂礫泥地		

表 4-1 確認種一覧（鳥類） (4/9)

No.	目名	科名	種名	学名	北海道	東北		関東	北陸	近畿	中国	四国	九州	確認河川数	指標性		
					石狩川	馬淵川	北上川	那珂川	常願寺川	(大和川水系) 初瀬川他△	日野川	(渡川水系) 四万十川	菊池川				
90	チドリ目	シギ科	クサシギ	<i>Tringa ochropus</i>			●	●		●	●	●	●	6	砂礫泥地		
91			タカブシギ	<i>Tringa glareola</i>	●									●	2	砂礫泥地	
92			キアシシギ	<i>Heteroscelus brevipes</i>	●		●	●	●			●	●	●	7	砂礫泥地	
93			ソリハシギ	<i>Xenus cinereus</i>								●	●	●	3	砂礫泥地	
94			イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	●	●	●	●	●			●	●	●	8	砂礫泥地	
95			ミュビシギ	<i>Calidris alba</i>						●						1	海岸
96			トウネン	<i>Calidris ruficollis</i>	●							●			●	3	海岸
97			オジロトウネン	<i>Calidris temminckii</i>											●	1	砂礫泥地
98			サルハマシギ	<i>Calidris ferruginea</i>											●	1	海岸
99		ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>	●	●	●			●					●	5	海岸	
100		ツバメチドリ科	ツバメチドリ	<i>Glareola maldivarum</i>									●		1	砂礫泥地	
101		カモメ科	ユリカモメ	<i>Larus ridibundus</i>	●	●	●	●				●			5	砂礫泥地	
102			ズグロカモメ	<i>Larus saundersi</i>										●		1	海岸
103			ウミネコ	<i>Larus crassirostris</i>	●	●	●	●	●			●				6	海岸
104			カモメ	<i>Larus canus</i>	●				●							2	海洋
105			シロカモメ	<i>Larus hyperboreus</i>	●											1	海岸
106			セグロカモメ	<i>Larus argentatus</i>	●	●	●	●	●			●	●	●		8	海洋
107			オオセグロカモメ	<i>Larus schistisagus</i>	●	●	●	●	●			●				6	海岸
108			コアジサシ	<i>Sterna albifrons</i>						●		●			●	3	砂礫泥地
109	タカ目		ミサゴ科	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	●	●	●	●	●		●	●	●	8	水辺	
110		タカ科	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	●		●	●	●		●	●			6	樹林性	
111			トビ	<i>Milvus migrans</i>	●	●	●	●	●		●	●	●		8	人家周辺	
112			オジロワシ	<i>Haliaeetus albicilla</i>	●		●		●						3	水辺	
113			オオワシ	<i>Haliaeetus pelagicus</i>	●		●								2	水辺	
114			チュウヒ	<i>Circus spilonotus</i>	●		●							●		3	草原
115			ハイイロチュウヒ	<i>Circus cyaneus</i>	●		●	●				●	●	●		6	草原
116			ツミ	<i>Accipiter gularis</i>	●		●									2	樹林性
117			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	●		●	●	●	●	●	●	●	●		8	樹林性
118			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	●		●	●	●	●			●	●		6	樹林性
119			サシバ	<i>Butastur indicus</i>			●	●					●			3	樹林性
120			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	●	●	●	●	●			●	●	●		8	人家周辺
121			クマタカ	<i>Nisaetus nipalensis</i>	●											1	樹林性

表 4-1 確認種一覧 (鳥類) (5/9)

No.	目名	科名	種名	学名	北海道	東北		関東	北陸	近畿	中国	四国	九州	確認河川数	指標性		
					石狩川	馬淵川	北上川	那珂川	常願寺川	(大和川水系) 初瀬川他△	日野川	(渡川水系) 四万十川	菊池川				
122	フクロウ目	フクロウ科	コノハズク	<i>Otus sunia</i>	●									1	樹林性		
123			フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	●		●	●			●	●	●		6	樹林性	
124			アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>			●	●	●	●		●	●	●		7	樹林性
125			トラフズク	<i>Asio otus</i>	●				●							2	人家周辺
126			コミミズク	<i>Asio flammeus</i>	●											1	人家周辺
127	ブッポウソウ目	カワセミ科	アカショウビン	<i>Halcyon coromanda</i>								●		1	樹林性		
128			カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●		9	水辺	
129			ヤマセミ	<i>Megaceryle lugubris</i>	●		●	●						●	4	水辺	
130	キツツキ目	キツツキ科	アリスイ	<i>Jynx torquilla</i>	●	●								2	樹林性		
131			コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	●		●	●	●		●	●	●		7	樹林性	
132			コアカゲラ	<i>Dendrocopos minor</i>	●										1	樹林性	
133			オオアカゲラ	<i>Dendrocopos leucotos</i>	●										1	樹林性	
134			アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>	●	●	●	●	●						5	樹林性	
135			クマゲラ	<i>Dryocopus martius</i>	●										1	樹林性	
136			アオゲラ	<i>Picus awokera</i>		●	●	●	●				●	●	6	樹林性	
137			ヤマゲラ	<i>Picus canus</i>	●										1	樹林性	
138	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>	●	●	●	●	●		●	●	●	8	草原		
139			コチョウゲンボウ	<i>Falco columbarius</i>	●		●	●							3	草原	
140			チゴハヤブサ	<i>Falco subbuteo</i>	●	●	●								3	人家周辺	
141			ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	●		●	●	●		●	●	●		7	水辺	
142	スズメ目	ヤイロチョウ科	ヤイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>									●	1	樹林性		
143		サンショウクイ科	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>			●	●	●						3	樹林性	
-			サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus divaricatus</i>					○						1	樹林性	
144			リュウキュウサンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus tegimae</i>								●	●		2	樹林性	
145		カササギヒタキ科	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>			●	●	●			●			4	樹林性	
146		モズ科	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●		9	人家周辺	
147			アカモズ	<i>Lanius cristatus</i>	●										1	人家周辺	
148			オオモズ	<i>Lanius excubitor</i>	●										1	人家周辺	

表 4-1 確認種一覧（鳥類） (6/9)

No.	目名	科名	種名	学名	北海道	東北		関東	北陸	近畿	中国	四国	九州	確認河川数	指標性	
					石狩川	馬淵川	北上川	那珂川	常願寺川	(大和川水系) 初瀬川他△	日野川	(渡川水系) 四万十川	菊池川			
149	スズメ目	カラス科	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	●	●	●	●	●			●		6	樹林性	
150			オナガ	<i>Cyanopica cyanus</i>		●	●	●	●						4	人家周辺
151			サンジャク	<i>Urocissa erythrorhyncha</i>									●		1	樹林性
152			カササギ	<i>Pica pica</i>	●									●	2	人家周辺
153			コクマルガラス	<i>Corvus dauuricus</i>		●									1	人家周辺
154			ミヤマガラス	<i>Corvus frugilegus</i>	●	●	●		●		●			●	6	人家周辺
155			ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9	人家周辺
156			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	8	人家周辺
157		クイタダキ科	クイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	●									1	樹林性	
158		ツリスガラ科	ツリスガラ	<i>Remiz pendulinus</i>									●	1	草原	
159		シジュウカラ科	ハシブトガラ	<i>Poecile palustris</i>	●										1	樹林性
160			コガラ	<i>Poecile montanus</i>	●		●								2	樹林性
161			ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>	●		●	●	●		●	●	●		7	樹林性
162			ヒガラ	<i>Periparus ater</i>	●		●								2	樹林性
163			シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	●	●	●	●	●		●	●	●		8	樹林性
164		ヒバリ科	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	●	●	●	●	●		●	●	●	8	草原	
165		ツバメ科	ショウドウツバメ	<i>Riparia riparia</i>	●									●	2	水辺
166			ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	●	●	●	●	●		●	●	●		8	人家周辺
167			コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>				●			●	●	●		4	人家周辺
168			イワツバメ	<i>Delichon dasypus</i>	●		●	●	●		●	●	●		7	人家周辺
169		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9	樹林性	
170		ウグイス科	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	●	●	●	●	●		●	●	●	8	樹林性	
171			ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>	●		●	●				●		4	樹林性	
172			エナガ科	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	●		●	●	●		●	●	●	7	樹林性
173		ムシクイ科	ムジセッカ	<i>Phylloscopus fuscatus</i>									●		1	樹林性
-			メボソムシクイ上種	<i>Phylloscopus borealis sensu lato</i>										○	1	樹林性
174			コムシクイ	<i>Phylloscopus borealis</i>										●	1	樹林性
175			オオムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	●	●	●		●						4	樹林性
176	メボソムシクイ		<i>Phylloscopus xanthodryas</i>			●								1	樹林性	
177	エゾムシクイ		<i>Phylloscopus borealoides</i>	●										1	樹林性	
178		センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	●		●						●	3	樹林性		

表 4-1 確認種一覧 (鳥類) (7/9)

No.	目名	科名	種名	学名	北海道	東北		関東	北陸	近畿	中国	四国	九州	確認河川数	指標性	
					石狩川	馬淵川	北上川	那珂川	常願寺川	(大和川水系) 初瀬川他△	日野川	(渡川水系) 四万十川	菊池川			
179	スズメ目	チメドリ科	ガビチョウ	<i>Garrulax canorus</i>				●					●	2	樹林性	
180			ヒゲガビチョウ	<i>Garrulax cineraceus</i>									●		1	樹林性
181			ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>					●				●		2	樹林性
182		メジロ科	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9	樹林性
183		センニュウ科	シマセンニュウ	<i>Locustella ochotensis</i>	●										1	草原
184			オオセッカ	<i>Locustella pryeri</i>			●								1	草原
185			エゾセンニュウ	<i>Locustella fasciolata</i>	●				●						2	草原
186		ヨシキリ科	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>	●	●	●	●	●		●	●	●		8	草原
187			コヨシキリ	<i>Acrocephalus bistrigiceps</i>	●	●	●								3	草原
188		セッカ科	セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>			●	●			●	●	●		5	草原
189		レンジャク科	キレンジャク	<i>Bombycilla garrulus</i>	●										1	人家周辺
190			ヒレンジャク	<i>Bombycilla japonica</i>	●									●	2	人家周辺
191		ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>	●		●								2	樹林性
192		キバシリ科	キバシリ	<i>Certhia familiaris</i>	●										1	樹林性
193		ミソサザイ科	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	●		●	●	●					●	5	樹林性
194		ムクドリ科	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9	人家周辺
195			コムクドリ	<i>Agropsar philippensis</i>	●	●	●						●	●	5	人家周辺
196		カワガラス科	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	●		●		●		●			●	5	水辺
197		ヒタキ科	マミジロ	<i>Zoothera sibirica</i>	●										1	樹林性
198			トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>	●		●			●					3	樹林性
199			クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	●	●	●								3	樹林性
200			マミチャジナイ	<i>Turdus obscurus</i>	●									●	2	樹林性
201			シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>	●		●	●	●		●	●	●		7	樹林性
202			アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>	●		●	●					●		4	樹林性
203			ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9	樹林性
204			コマドリ	<i>Luscinia akahige</i>	●										1	樹林性
205			ノゴマ	<i>Luscinia calliope</i>	●										1	草原
206			コルリ	<i>Luscinia cyane</i>	●										1	樹林性
207	ルリビタキ		<i>Tarsiger cyanurus</i>			●	●						●	●	4	樹林性
208	ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureus</i>			●	●	●	●	●	●	●	●	●	7	樹林性	

表 4-1 確認種一覧 (鳥類) (8/9)

No.	目名	科名	種名	学名	北海道	東北		関東	北陸	近畿	中国	四国	九州	確認河川数	指標性	
					石狩川	馬淵川	北上川	那珂川	常願寺川	(大和川水系) 初瀬川他△	日野川	(渡川水系) 四万十川	菊池川			
209	スズメ目	ヒタキ科	ノビタキ	<i>Saxicola torquatus</i>	●	●	●	●					●	5	草原	
210			イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>		●	●	●	●	●	●	●	●	●	8	水辺
211			エゾビタキ	<i>Muscicapa griseisticta</i>										●	1	樹林性
212			コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	●			●	●					●	4	樹林性
213			キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	●		●	●	●					●	6	樹林性
214			オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	●		●							●	3	樹林性
215		スズメ科	ニューナイスズメ	<i>Passer rutilans</i>	●									●	2	樹林性
216			スズメ	<i>Passer montanus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9	人家周辺
217		セキレイ科	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9	水辺
218			ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9	水辺
219			セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9	水辺
220			ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>	●									●	2	草原
221			ムネアカタヒバリ	<i>Anthus cervinus</i>										●	1	草原
222			タヒバリ	<i>Anthus rubescens</i>	●		●	●			●	●	●	●	7	水辺
223		アトリ科	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	●		●	●	●			●	●	●	7	樹林性
224			カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9	人家周辺
225			マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>	●		●								2	樹林性
226			ベニヒワ	<i>Carduelis flammea</i>	●										1	樹林性
227			ハギマシコ	<i>Leucosticte arctoa</i>			●								1	草原
228			ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>	●	●	●	●	●			●	●		7	人家周辺
229			イスカ	<i>Loxia curvirostra</i>	●										1	樹林性
230			ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	●										1	樹林性
231			シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	●	●	●	●	●					●	6	樹林性
232			イカル	<i>Eophona personata</i>	●		●		●			●	●	●	6	樹林性
233			ツメナガホオジロ科	ツメナガホオジロ	<i>Calcarius lapponicus</i>	●										1
234		ホオジロ科	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	●	●	●	●	●		●	●	●	●	8	人家周辺
235			ホオアカ	<i>Emberiza fucata</i>	●	●	●	●	●				●	●	7	草原
236			コホオアカ	<i>Emberiza pusilla</i>			●								1	草原
237			カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>	●		●	●	●			●	●	●	7	人家周辺

表 4-1 確認種一覧（鳥類） (9/9)

No.	目名	科名	種名	学名	北海道	東北		関東	北陸	近畿	中国	四国	九州	確認河川数	指標性	
					石狩川	馬淵川	北上川	那珂川	常願寺川	(大和川水系) 初瀬川他△	日野川	(渡川水系) 四万十川	菊池川			
238	スズメ目	ホオジロ科	ミヤマホオジロ	<i>Emberiza elegans</i>	●			●						2	人家周辺	
239			アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9	樹林性	
240			クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>				●							1	樹林性
241			オオジュリン	<i>Emberiza schoeniclus</i>	●		●	●	●		●	●	●	7	草原	
水系別確認種数					169	83	148	121	90	29	95	120	129	-	-	
地方別確認数					169		152	121	90	29	95	120	129	-	-	

- 注1) 河川名の下に△は指定区間を示す。
 注2) 種を基準として種数を数え、種数に加えないものは○で示した。(亜種は当該亜種が含まれる種が確認されているときは数えていない)。
 注3) 本リストは、家禽、籠脱けを含む。
 注4) 確認種は、「集団分布地調査」、「移動時確認」によるものを含む。
 注5) 種数の計数は「平成28年度版河川水辺の国勢調査基本調査マニュアル〔河川版〕(平成28年1月 改訂)」に準拠して行った。
 注6) 本リストには種まで確定しているものを載せた。
 注7) 指標性は「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編><水鳥編>、保育社(1995)」を参考にした。

表 4-2 重要種一覧 (鳥類) (1/2)

No.	目名	科名	種名	学名	文化財保護法	種の保存法	環境省レッドリスト	北海道	東北		関東	北陸	近畿	中国	四国	九州	確認河川数	指標性
								石狩川	馬淵川	北上川	那珂川	常願寺川	(大和川水系) 初瀬川他△	日野川	(渡川水系) 四万十川	菊池川		
1	キジ目	キジ科	ウズラ	<i>Coturnix japonica</i>			絶滅危惧II類 (VU)	●									1	草原
2	カモ目	カモ科	ヒシクイ	<i>Anser fabalis</i>	国指定天然記念物		絶滅危惧I類 (VU)	●		●							2	湖沼静止水面
-			オオヒシクイ	<i>Anser fabalis middendorffii</i>	国指定天然記念物		準絶滅危惧 (NT)	○									1	湖沼静止水面
3			マガン	<i>Anser albifrons</i>	国指定天然記念物		準絶滅危惧 (NT)	●		●							2	湖沼静止水面
4			シジュウカラガン	<i>Branta hutchinsii</i>		国内希少野生動物物種	絶滅危惧IA類 (CR)			●							1	湖沼静止水面
5			コクガン	<i>Branta bernicla</i>	国指定天然記念物		絶滅危惧II類 (VU)			●							1	海岸
6			ツクシガモ	<i>Tadorna tadorna</i>			絶滅危惧II類 (VU)									●	1	海岸
7			アカツクシガモ	<i>Tadorna ferruginea</i>			情報不足 (DD)									●	1	海岸
8			オシドリ	<i>Aix galericulata</i>			情報不足 (DD)	●	●	●	●	●	●	●	●		8	河川流水
9			トモエガモ	<i>Anas formosa</i>			絶滅危惧II類 (VU)	●		●				●	●	●	5	湖沼静止水面
10			シノリガモ	<i>Histrionicus histrionicus</i>			絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) (東北地方以北のシノリガモ繁殖個体群)	●	●								2	海岸
11	コウノトリ目	コウノトリ科	コウノトリ	<i>Ciconia boyciana</i>	特別天然記念物	国内希少野生動物物種	絶滅危惧IA類 (CR)				●						1	海岸
12	カツオドリ目	ウ科	ヒメウ	<i>Phalacrocorax pelagicus</i>			絶滅危惧II類 (EN)				●				●		2	海岸
13	ペリカン目	サギ科	ヨシゴイ	<i>Ixobrychus sinensis</i>			準絶滅危惧 (NT)			●	●						2	水辺草むら
14			チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>			準絶滅危惧 (NT)		●	●	●		●	●	●		6	水辺草むら
15		トキ科	ヘラサギ	<i>Platalea leucorodia</i>			情報不足 (DD)										1	海岸
16			クロツラヘラサギ	<i>Platalea minor</i>		国内希少野生動物物種	絶滅危惧II類 (EN)									●	1	海岸
17	ソル目	ツル科	タンチョウ	<i>Grus japonensis</i>	特別天然記念物	国内希少野生動物物種	絶滅危惧II類 (VU)	●									1	海岸
18		クイナ科	シマクイナ	<i>Coturnicops exquisitus</i>		国内希少野生動物物種	絶滅危惧II類 (EN)			●							1	水辺草むら
19			ヒクイナ	<i>Porzana fusca</i>			準絶滅危惧 (NT)				●				●	●	3	水辺草むら
20	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>			準絶滅危惧 (NT)	●									1	樹林性
21	チドリ目	チドリ科	ケリ	<i>Vanellus cinereus</i>			情報不足 (DD)			●		●				●	3	砂礫泥地
22			シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>			絶滅危惧II類 (VU)			●		●	●	●	●		5	海岸
23		セイタカシギ科	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus</i>			絶滅危惧II類 (VU)	●							●		2	海岸
24		シギ科	オオジシギ	<i>Gallinago hardwickii</i>			準絶滅危惧 (NT)	●									1	水辺草むら
25			オオソリハシシギ	<i>Limosa lapponica</i>			絶滅危惧II類 (VU)									●	1	砂礫泥地
26			タカフシギ	<i>Tringa glareola</i>			絶滅危惧II類 (VU)	●								●	2	砂礫泥地
27			ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>			準絶滅危惧 (NT)	●	●	●		●				●	5	海岸
28		ツバメチドリ科	ツバメチドリ	<i>Glareola maldivarum</i>			絶滅危惧II類 (VU)								●		1	砂礫泥地
29		カモメ科	ズグロカモメ	<i>Larus saundersi</i>			絶滅危惧II類 (VU)									●	1	海岸
30			オオセグロカモメ	<i>Larus schistisagus</i>			準絶滅危惧 (NT)	●	●	●	●	●	●	●			6	海岸
31			コアシサシ	<i>Sterna albifrons</i>			絶滅危惧II類 (VU)	●				●	●	●	●		3	砂礫泥地
32	タカ目	ミサコ科	ミサコ	<i>Pandion haliaetus</i>			準絶滅危惧 (NT)	●	●	●	●	●	●	●	●		8	水辺
33		タカ科	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>			準絶滅危惧 (NT)	●	●	●	●	●	●	●	●		6	樹林性
34			オジロワシ	<i>Haliaeetus albicilla</i>	国指定天然記念物	国内希少野生動物物種	絶滅危惧II類 (VU)	●	●	●	●						3	水辺
35			オオワシ	<i>Haliaeetus pelagicus</i>	国指定天然記念物	国内希少野生動物物種	絶滅危惧II類 (VU)	●	●	●	●						2	水辺
36			チュウヒ	<i>Circus spilonotus</i>		国内希少野生動物物種	絶滅危惧II類 (EN)	●		●					●		3	草原
37			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>			準絶滅危惧 (NT)	●		●	●	●	●	●	●		8	樹林性
38			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>			準絶滅危惧 (NT)	●		●	●	●	●	●	●	●	6	樹林性
39			サシバ	<i>Butastur indicus</i>			絶滅危惧II類 (VU)			●	●				●		3	樹林性
40			クマタカ	<i>Nisaetus nipalensis</i>		国内希少野生動物物種	絶滅危惧II類 (EN)	●									1	樹林性

表 4-2 重要種一覧（鳥類）（2/2）

No.	目名	科名	種名	学名	文化財保護法	種の保存法	環境省レッドリスト	北海道	東北		関東	北陸	近畿	中国	四国	九州	確認 河川数	指標性		
								石狩川	馬淵川	北上川	那珂川	常願寺川	（大和川水系） 初瀬川他△	日野川	（渡川水系） 四万十川	菊池川				
41	キツキ目	キツキ科	クマガラ	<i>Dryocopus martius</i>	国指定天然記念物		絶滅危惧II類 (VU)	●									1	樹林性		
42	ハヤブサ目	ハヤブサ科	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>		国内希少野生動物種	絶滅危惧II類 (VU)	●		●	●	●	●	●	●	●	7	水辺		
43	スズメ目	ヤイロチョウ科	ヤイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>		国内希少野生動物種	絶滅危惧II類 (EN)									●	1	樹林性		
44	-	サンショウウイ科	サンショウウイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>			絶滅危惧II類 (VU)			●	●	●					3	樹林性		
			サンショウウイ（亜種）	<i>Pericrocotus divaricatus divaricatus</i>			絶滅危惧II類 (VU)					○						1	樹林性	
45		モズ科	アカモズ	<i>Lanius cristatus</i>		国内希少野生動物種	絶滅危惧II類 (EN)	●									1	人家周辺		
46		ムシクイ科	オオムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>			情報不足 (DD)	●	●	●	●						4	樹林性		
47		センニュウ科	オオセッカ	<i>Locustella pryeri</i>		国内希少野生動物種	絶滅危惧II類 (EN)			●							1	草原		
水系別確認種数								25	7	25	13	14	2	10	15	20	-	-		
地方別確認数								25		26	13	14	2	10	15	20	-	-		

- 注1) 河川名の下に△は指定区間を示す。
 注2) 確認種は、「集団分布地調査」、「移動時確認調査」を含む。
 注3) ●は確認を示す。
 注4) △は種は確認されているが、重要種のカテゴリーとしての地域個体群に該当しないことを示す。（種数としてカウントしない）
 注5) ○は亜種を示す。（種を基準として種数を数え、当該亜種が含まれている場合は種数に加えていない）。
 注6) 種数の計数は「平成28年度版河川水辺の国勢調査基本調査マニュアル〔河川版〕（平成28年1月 改訂）」に準拠して行った。
 注7) 種は確認されているが、南西諸島など地理的分布上出現しないと想定される亜種のみで指定されている種は当リストには掲載していない。
 注8) 亜種を識別していないサンショウウイは、亜種サンショウウイである可能性を考慮して重要種として扱った。
 注9) 種の並び、上位分類群は日本鳥類目録（7版）に従った。

凡例

文化財保護法

特別天然記念物 国指定天然記念物

種の保存法

「絶滅のおそれのある野生動物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動物種及び緊急指定種

環境省版レッドリスト（絶滅のおそれのある野生動物の種のリスト）（環境省レッドリスト2020：令和2年3月27日報道発表資料）

絶滅危惧I A類 (CR)：ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種

絶滅危惧I B類 (EN)：I A類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種

絶滅危惧II類 (VU)：絶滅の危険が増大している種

準絶滅危惧 (NT)：現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

情報不足 (DD)：評価するだけの情報が不足している種

絶滅のおそれのある地域個体群 (Lp)：地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群

表 4-3 国外外来種（鳥類）

No.	目名	科名	種名	学名	国内外来種	北海道	東北	関東	北陸	近畿	中国	四国	九州	確認 河川数	指標性	
						石狩川	馬淵川	北上川	那珂川	常願寺川	(大和川水系) 初瀬川他△	日野川	(渡川水系) 四万十川			菊池川
1	キジ目	キジ科	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracicus</i>	外来種			●	●				●	●	4	樹林性
2			コウライキジ	<i>Phasianus colchicus karpowi</i>	総合対策（その他）	●										1
3	カモ目	カモ科	コブハクチョウ	<i>Cygnus olor</i>	総合対策（その他）			●							1	湖沼静止水面
4			アヒル	<i>Anas platyrhynchos</i> var. <i>domesticus</i>	家禽			●						●		2
5	ハト目	ハト科	カワラバト(ドバト)	<i>Columba livia</i>	家禽	●	●	●	●	●	●	●	●	●	8	人家周辺
6	スズメ目	カラス科	サンジャク	<i>Urocissa erythrorhyncha</i>	外来種							●			1	樹林性
7		チメドリ科	ガビチョウ	<i>Garrulax canorus</i>	特定/総合対策（重点）			●					●		2	樹林性
8			ヒゲガビチョウ	<i>Garrulax cineraceus</i>	特定/総合対策（重点）							●			1	樹林性
9			ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>	特定/総合対策（重点）				●				●			2
水系別確認種数						2	1	3	5	1	0	1	5	4	-	-
地方別確認種数						2		3	5	1	0	1	5	4	-	-

注1) 河川名の下△は指定区間を示す。

注2) 本リストは、家禽、籠脱けを含む。

注3) ●は、確認を示す。

注4) 確認種は、「集団分布地調査」、「移動時確認」を含む。

注5) 種数の計数は「平成28年度版河川水辺の国勢調査基本調査マニュアル [河川版] (平成28年1月 改訂)」に準拠して行った。

注6) 種の並び、上位分類群は日本鳥類目録(7版)に従った。

注7) ※; コブハクチョウは野生化し自然分布と区別できない個体も生息している。

凡例)

「特定外来生物による生態系に係る被害の防止に関する法律（以下「特定外来生物法」）」指定種

特定：「特定外来生物法」における特定外来生物

未判定：「特定外来生物法」における未判定外来生物

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（以下「生態系被害防止外来種リスト」）」掲載種

定着予防（侵入予防）：国内に未侵入・未定着であり、定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、特に国内への侵入を未然に防ぐ必要がある外来種

定着予防（その他）：侵入の情報はありますが、国内に未定着であり、定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、早期防除が必要な外来種

総合対策（緊急）：国内に定着が確認されており、生態系等への被害のおそれがあるため、総合的に対策が必要な外来種のうち、緊急性が高く、積極的に防除が必要な外来種

総合対策（重点）：国内に定着が確認されており、生態系等への被害のおそれがあるため、総合的に対策が必要な外来種のうち、甚大な被害が予想される重点的に対策が必要な外来種

総合対策（その他）：国内に定着が確認されており、生態系等への被害のおそれがあるため、総合的に対策が必要な外来種のうち、緊急、重点に該当しない種

産業管理：産業又は公益的役割において重要であり、利用において逸出等の防止のための適切な管理に重点を置いた対策が必要な外来種

4.2 河川管理との関わり（河川の自然度・健全度）

河川には、河口域などに広がるヨシ原や、洪水などによる攪乱^{かくらん}によって成立する裸地や砂礫^{れき}河原などの特有の環境がみられ、様々な鳥類の生息場（ハビタット）を提供しています。ここでは、河川環境に関わりの深い種の確認状況を整理しました。なお、定量的な分析を行うため、本章ではスポットセンサス調査の結果のみを用いて詳細な解析を行いました（4-57～4-58 ページ参照）。

【河川に関わりの深い種（オオヨシキリ、コヨシキリ）の確認状況】

（鳥類調査）

・ オオヨシキリは8河川、コヨシキリは3河川で確認

ヨシ原で繁殖する代表的な鳥類であるオオヨシキリとコヨシキリの確認状況を整理しました。

オオヨシキリは、今回とりまとめを行った8河川のうち8河川で、コヨシキリは3河川で確認されました。確認範囲をみると、オオヨシキリは、各河川の下流から上流まで広い範囲で確認され、コヨシキリは石狩川、馬淵川、北上川のみでの確認となりました。

（資料掲載：4-19～4-20 ページ、4-57～4-58 ページ）

表 4-4 1～5 巡目調査の確認河川数の比較

種類	1巡目 (81河川)	2巡目 (118河川)	3巡目 (122河川)	4巡目 (123河川)	5巡目 (115河川)
オオヨシキリ	76河川 〔93.8%〕	113河川 〔95.8%〕	116河川 〔95.1%〕	116河川 〔94.3%〕	112河川 〔97.4%〕
コヨシキリ	33河川 〔40.7%〕	55河川 〔46.6%〕	56河川 〔45.9%〕	48河川 〔39.0%〕	34河川 〔29.6%〕

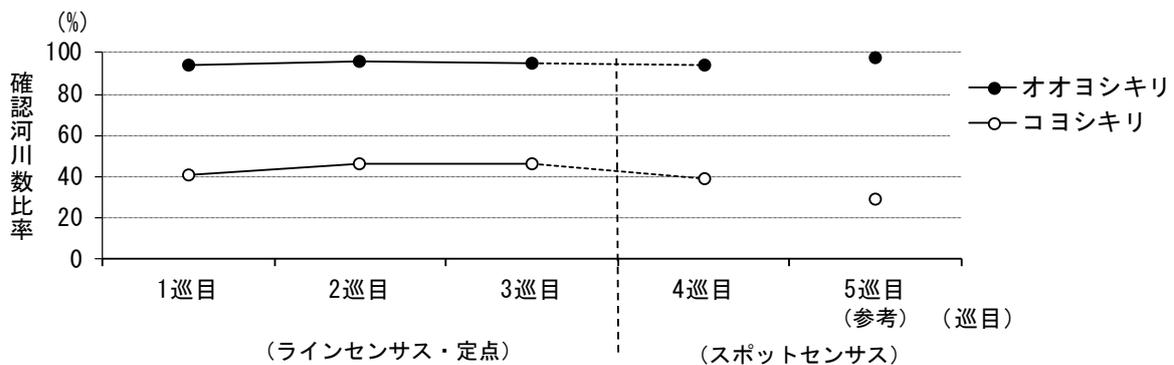


図 4-2 確認河川数比率の変化

※ 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。図 4-3 オオヨシキリ、コヨシキリの繁殖期の確認個体数と

※ 1～4 巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。

※ () 内は調査実施河川数を示す。

※ [] 内は確認河川数の調査実施河川数に対する割合 (%) を示す。

※ 4 巡目からは、調査方法を調査地区対象のラインセンサス調査から河川全体の調査箇所における分布の確認を主としたスポットセンサス調査に変更した。

※ 5 巡目は調査途中であり、掲載しているデータは平成 28～令和 6 年度(2016～2024 年度)の調査結果を示す。

オオヨシキリは、東南アジアから渡来する夏鳥で、全国の水辺のヨシ原に生息する種です。海岸や河口、川岸、湖岸のヨシ原で繁殖します。コヨシキリも同様に夏鳥で、全国の水辺のヨシ原にも生息しますが、ススキやヨモギなどが茂った乾いた草原に多くみられます。東日本では低地でも繁殖しますが、西日本では標高が高く、草丈の高い草原で繁殖します。両種は、ともに昆虫類等を餌とします^{注1)}。

オオヨシキリは、今回とりまとめを行った8河川のうち8河川で、コヨシキリは3河川で確認されました。オオヨシキリ、コヨシキリの繁殖期の確認個体数(1~2kmピッチ)と同スポットの高茎草本群落(ヨシ群落、セイタカヨシ群落、ツルヨシ群落、オギ群落)面積(1km幅)の流程分布状況を図4-3(4-17ページ)に示しました。オオヨシキリは一般的に、標高の低いところに分布する水辺に近いヨシ群落を好み、また、連続しない小さく分断化されたヨシ群落では生息確率が低いことが知られています^{注2)}。

今回とりまとめを行った河川のうち8河川において、ヨシ群落やオギ群落が広がっている地点は、オオヨシキリの確認個体数も多い傾向がみられました。オオヨシキリは、営巣には主にヨシ群落を利用しますが、採餌などの普段の活動ではヨシ群落以外の環境も広く利用していることが分かります。また、北海道の石狩川では、ヨシ群落が広がっている地点でコヨシキリの確認個体数が増加する傾向がみられました。

5巡目調査での調査実施河川数に占める確認された河川数の割合をみると、オオヨシキリでは、4巡目に比べ増加傾向がみられましたが、コヨシキリでは減少傾向がみられました。オオヨシキリ、コヨシキリともに環境省のレッドリストのカテゴリーは指定されていませんが、地方版レッドリストではオオヨシキリは12都道府県、コヨシキリは21都道府県で絶滅危惧Ⅱ類や準絶滅危惧種に指定され^{注3)}、減少傾向が懸念されています。

調査方法が同じスポットセンサスの調査を対象に、同じ河川(N=105)における確認率(確認スポット数/調査スポット数)に4巡目と5巡目で差があるかどうかをウィルコクソンの符号付き順位検定^{注4)}によって検討しました。また、個体数密度(総確認個体数/調査スポット数)の変化についても、ウィルコクソンの符号付き順位検定^{注4)}によって検討しました(棄却域0.05、両側検定)。なお、コヨシキリの個体数密度の検定のみ、4巡目と5巡目とも記録がない河川を除外しました(N=44)。コヨシキリは西日本での確認がほとんどなく、これらを検定に含めると検定結果に影響を与えるためです。この結果、コヨシキリは個体数密度に有意な増加傾向がみられましたが、コヨシキリの確認率、オオヨシキリの個体密度および確認率ともに有意な差はみられませんでした。オオヨシキリ、コヨシキリともに、今後も注目していくことが必要です。

注1) 出典：原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>。1995。保育社。

注2) 出典：永田尚志。2005。ヨシ原の分布とオオヨシキリの生息分布の予測。国環研ニュース、24(3)。
国立研究開発法人 国立環境研究所。

注3) 出典：日本のレッドデータ検索システム (<http://jpnrdp.com/index.html>)

注4) 統計学辞典、(2017)、栗原伸一・丸山敦史/共著 オーム社



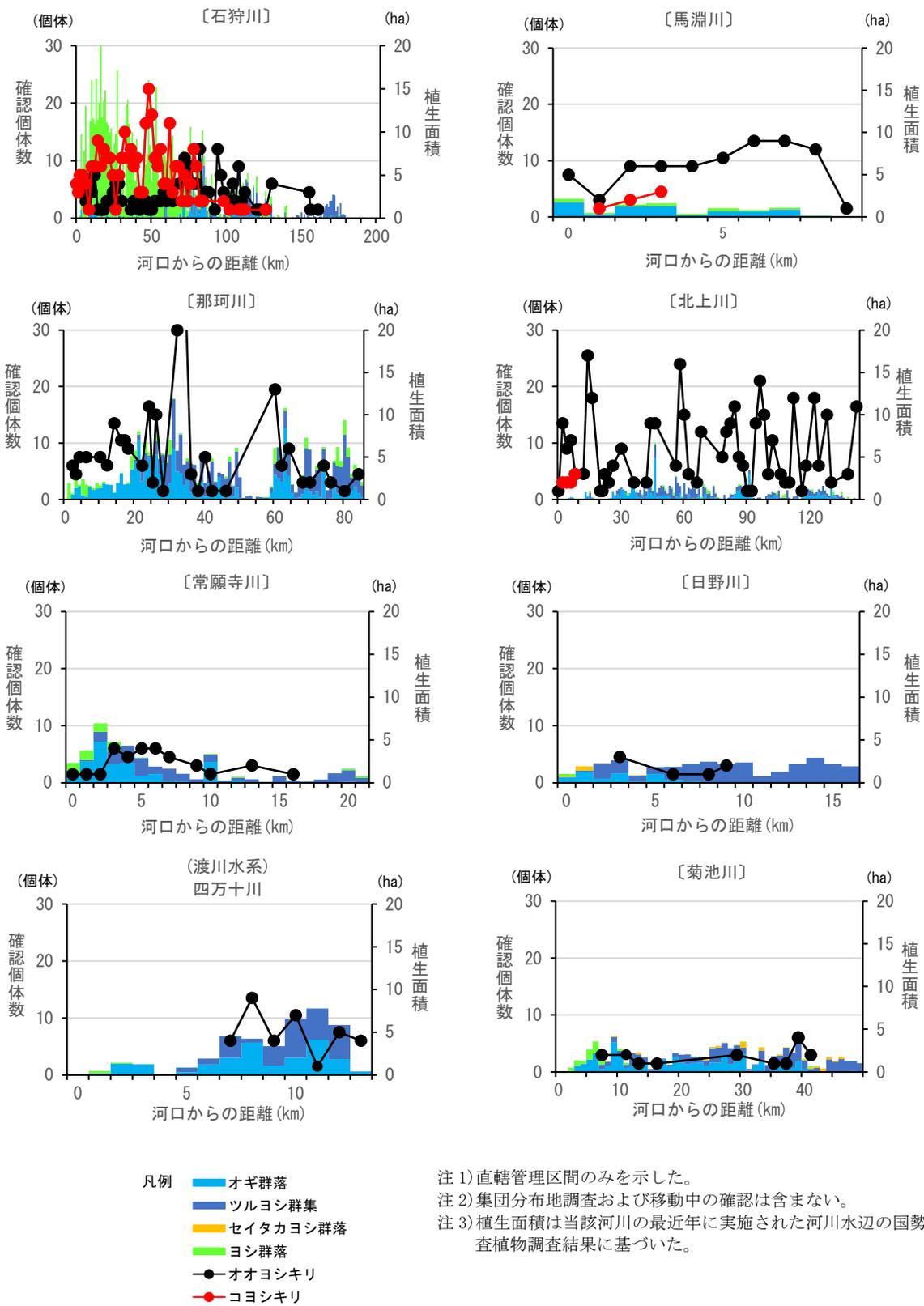
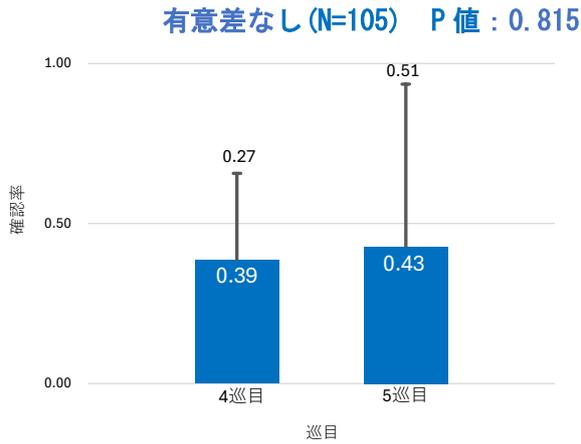
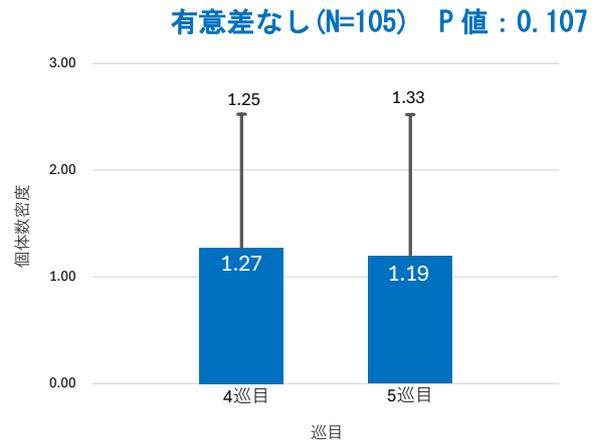


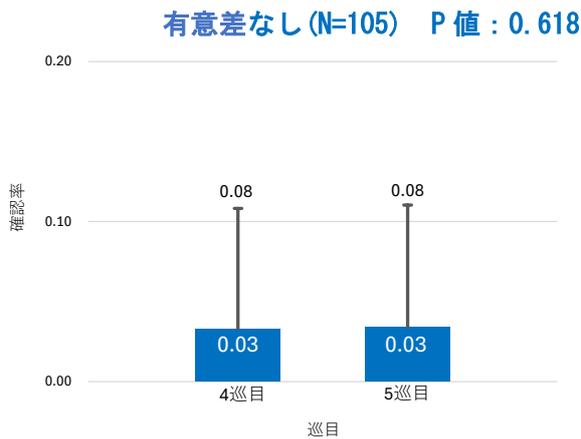
図 4-3 オオヨシキリ、コヨシキリの繁殖期の確認個体数と高茎草本群落面積の流程分布状況



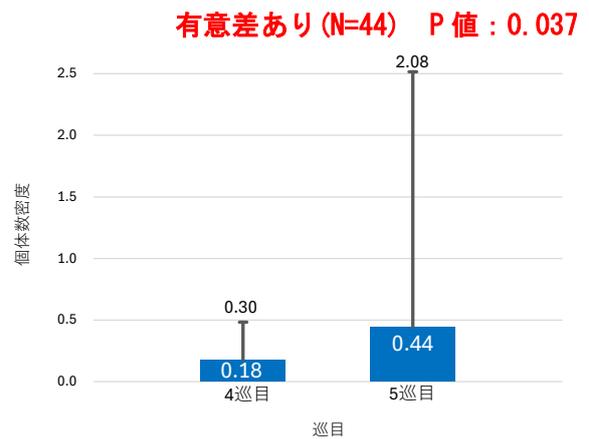
オオヨシキリの確認率
(確認スポット数/調査スポット数)



オオヨシキリの個体数密度
(総確認個体数/調査スポット数)



コヨシキリの確認率
(確認スポット数/調査スポット数)

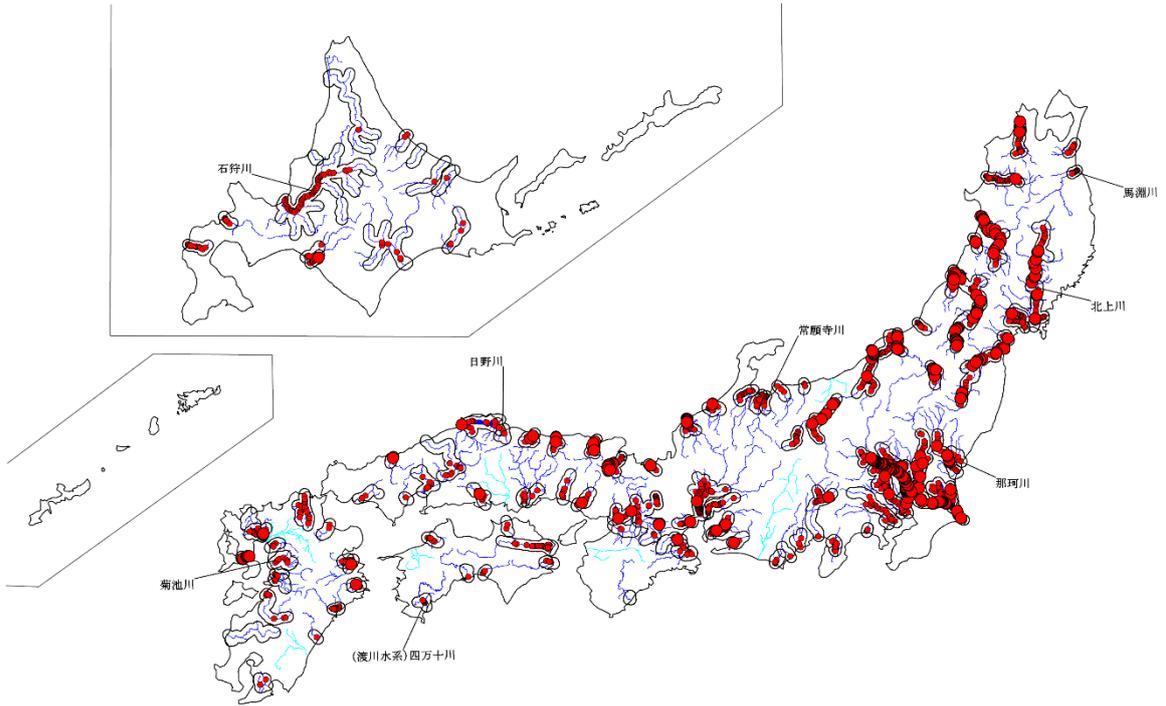


コヨシキリの個体数密度
(総確認個体数/調査スポット数)

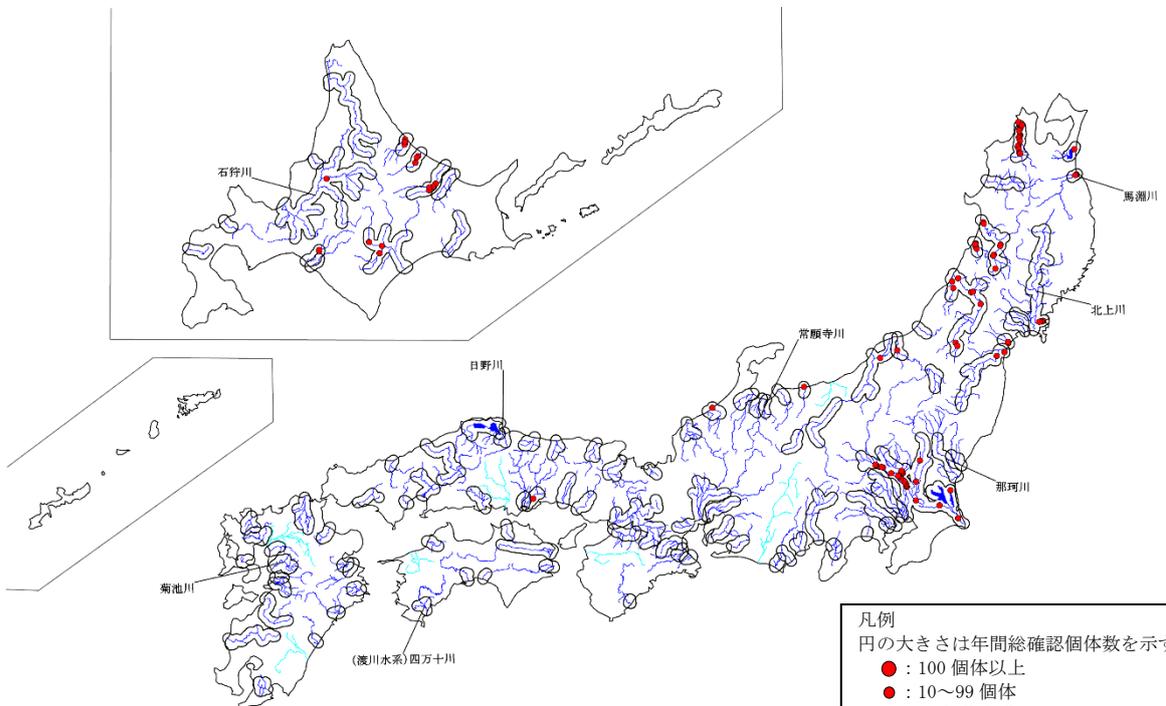
※棒グラフは平均値、ひげは標準偏差を示す。

図 4-4 ウィルコクソンの符号付き順位検定 (オオヨシキリ・コヨシキリ)

オオヨシキリ



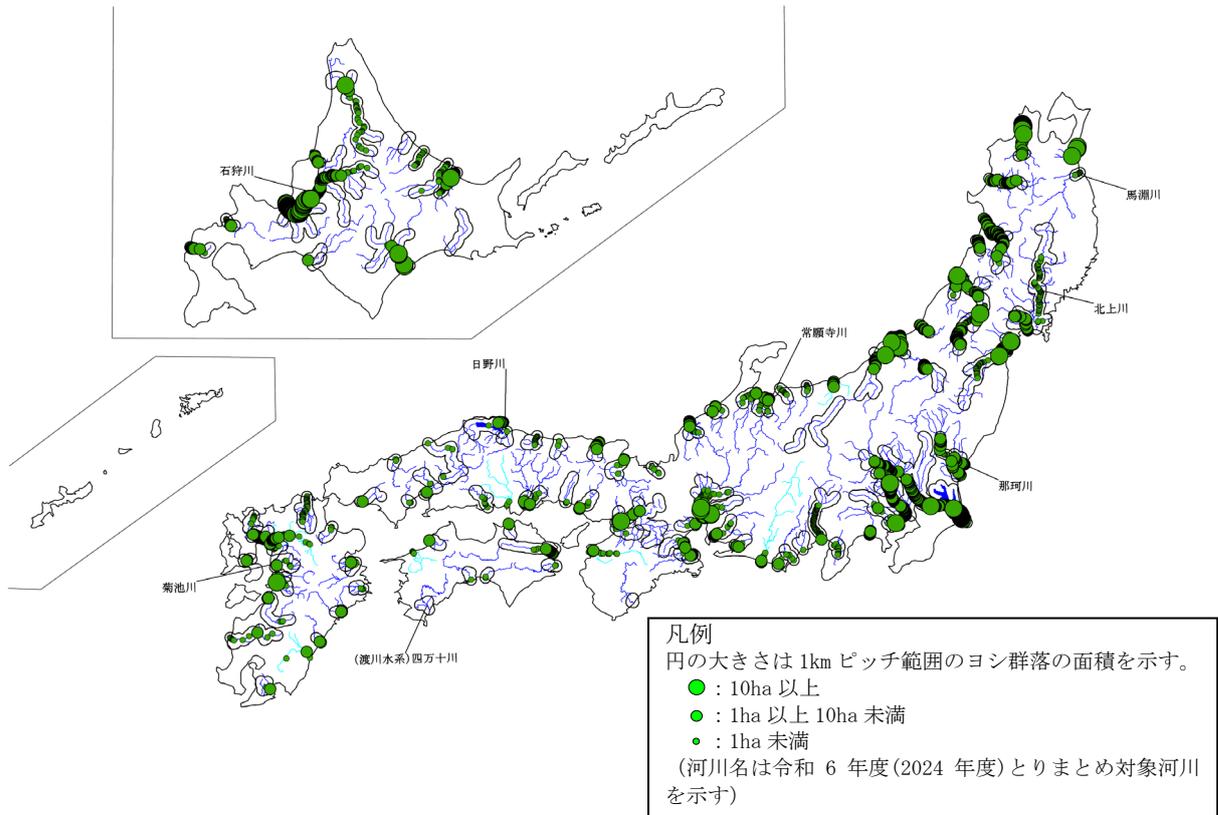
コヨシキリ



凡例
 円の大きさは年間総確認個体数を示す。
 ● : 100 個体以上
 ● : 10~99 個体
 ● : 10 個体未満
 ○ : 5 巡目調査スポット設定範囲を示す。
 (集団分布地、移動中の確認は含まない)
 (河川名は令和 6 年度(2024 年度)とりまとめ対象河川を示す)

注) 5 巡目調査は調査実施途中であり、— は、調査未実施の河川を示す。

図 4-5 オオヨシキリ・コヨシキリの確認スポット (5 巡目調査)



参考図 河川の 1km ピッチのヨシ群落の面積

【河川に関わりの深い種（コアジサシ、コチドリ、イカルチドリ）の確認状況】（鳥類調査）

- ・ 砂礫河原で営巣するコアジサシを3河川、コチドリを8河川、イカルチドリを7河川で確認

河川の砂礫河原や砂洲の状況を把握するため、砂礫地で営巣するコアジサシ、コチドリ、イカルチドリの確認状況を整理しました。

コアジサシは、今回とりまとめを行った8河川のうち3河川で、コチドリは8河川で、イカルチドリは7河川で確認されました。確認位置をみると、コアジサシは主に下流付近で、コチドリ、イカルチドリは下流から上流まで広く確認されました。

（資料掲載：4-24～4-25 ページ、4-57～4-58 ページ）

表 4-5 1～5 巡目調査の確認河川数の比較

種類	1巡目 (81河川)	2巡目 (118河川)	3巡目 (122河川)	4巡目 (123河川)	5巡目 (115河川)
コアジサシ	47河川 〔58.0%〕	68河川 〔57.6%〕	69河川 〔56.6%〕	65河川 〔52.8%〕	42河川 〔36.5%〕
コチドリ	65河川 〔80.2%〕	109河川 〔92.4%〕	117河川 〔95.9%〕	115河川 〔93.5%〕	112河川 〔97.4%〕
イカルチドリ	61河川 〔75.3%〕	102河川 〔86.4%〕	111河川 〔91.0%〕	107河川 〔87.0%〕	96河川 〔83.5%〕

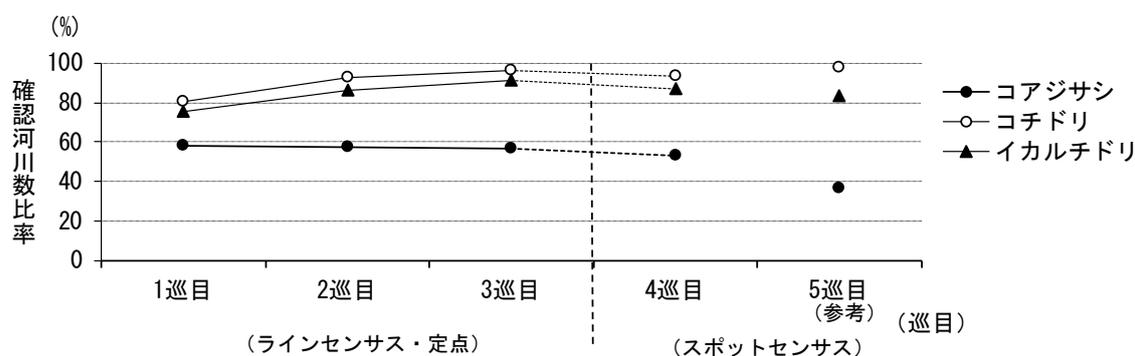


図 4-6 確認河川数比率の変化

- ※ 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。
- ※ 1～4 巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。
- ※ () 内は調査実施河川数を示す。
- ※ [] 内は確認河川数の調査実施河川数に対する割合 (%) を示す。
- ※ 4 巡目からは、調査方法を調査地区対象のラインセンス調査から河川全体の調査箇所における分布の確認を主としたスポットセンサス調査に変更した。
- ※ 5 巡目は調査途中であり、掲載しているデータは平成 28～令和 6 年度(2016～2024 年度)の調査結果を示す。

コアジサシは赤道を越えてオーストラリアなどから渡ってくる夏鳥です。日本では本州以南でみられ、海岸や大きな川の河口や中洲のような、砂や砂利の上に簡単な巣を作って2~3個の卵を産みます。個体数が減少傾向にあるといわれ、環境省版レッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。コチドリは主に夏鳥として飛来し、川の中流から下流の砂礫河原、海岸の砂丘や埋立地などに営巣し、全国で繁殖します。イカルチドリは日本では留鳥として本州以南で繁殖します。主な生息場所はコチドリよりも上流の河原で、氾濫原の礫の多いところで営巣し、砂や土の多い埋立地では繁殖しません^{注1)}。

コアジサシは、今回とりまとめを行った8河川のうち3河川で確認(4巡目調査では同じ8河川のうち4河川で確認)されました。コチドリは8河川のうち8河川で確認(4巡目調査でも同じ8河川のうち8河川で確認)され、イカルチドリは8河川のうち7河川で確認(4巡目調査でも同じ8河川のうち7河川で確認)されました。(資料掲載: 4-57~4-58 ページ)

確認位置をみると、コアジサシは主に下流付近で、コチドリ、イカルチドリは下流から上流まで広く確認されました。

調査実施河川数に占める確認された河川数の割合を比較すると、コチドリ、イカルチドリで3巡目まで増加していましたが、イカルチドリでは4巡目調査から5巡目調査にかけてわずかに減少傾向となりました。一方、コチドリは5巡目調査では増加傾向にあります。

絶滅危惧Ⅱ類のコアジサシについては、1巡目から5巡目調査にかけて減少傾向がみられたことから、調査方法が同じスポットセンサスの調査を対象とし、確認率(確認スポット数/調査スポット数)に4巡目と5巡目で差があるかどうかを、ウィルコクソンの符号付き順位検定^{注2)}によって検討しました。また、個体数密度(総確認個体数/調査スポット数)の変化についても、ウィルコクソンの符号付き順位検定^{注2)}によって検討しました(棄却域0.05、両側検定)。なお、個体数密度の検定のみ、4巡目と5巡目とも記録がない河川を除外しました(N=52)。コアジサシは記録がない河川も多く、これらを検定に含めると検定結果に影響を与えるためです。

その結果、コアジサシの確認率、個体数密度ともに有意な減少傾向がみられました。

なお、5巡目調査は実施河川数が全対象河川の93.5%(115河川/123河川)であり、それぞれの種の確認率や個体密度の変化について、今後も注視していく必要があります。

注1) 出典: 川の生物図典, (1996)、財団法人リバーフロント整備センター, 山海堂

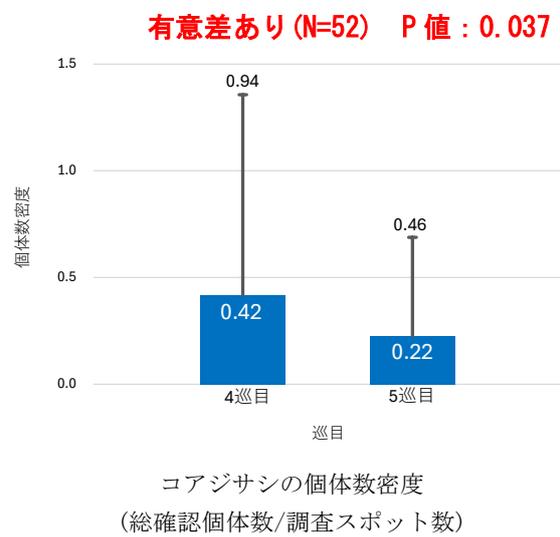
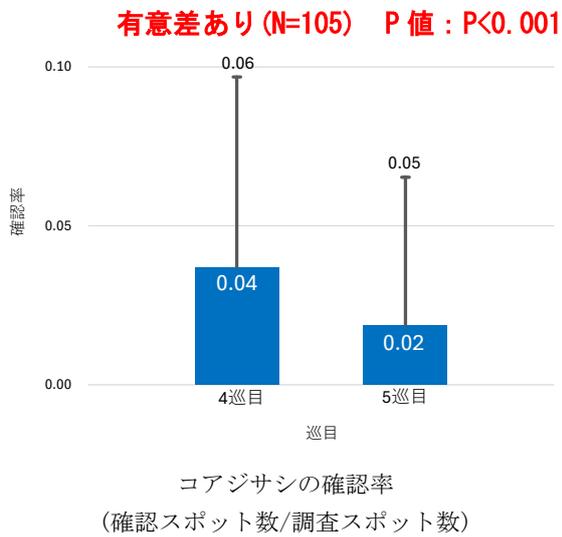
注2) 統計学辞典, (2017)、栗原伸一・丸山敦史/共著 オーム社

表 4-6 コアジサシ、コチドリ、イカルチドリの確認状況

地整	種名 河川名 \ 巡目	コアジサシ		コチドリ		イカルチドリ	
		4巡目	5巡目	4巡目	5巡目	4巡目	5巡目
北海道	石狩川	×	×	●	◎	●	◎
東北	馬淵川	×	×	●	◎	×	×
東北	北上川	●	×	●	◎	●	◎
関東	那珂川	●	×	●	◎	●	◎
北陸	常願寺川	●	◎	●	◎	●	◎
中国	日野川	●	◎	●	◎	●	◎
四国	(渡川水系) 四万十川	×	×	●	◎	●	◎
九州	菊池川	×	◎	●	◎	●	◎

●◎: 確認

×: 未確認



※棒グラフは平均値、ひげは標準偏差を示す。

図 4-7 ウィルコクソンの符号付き順位検定 (コアジサシ)

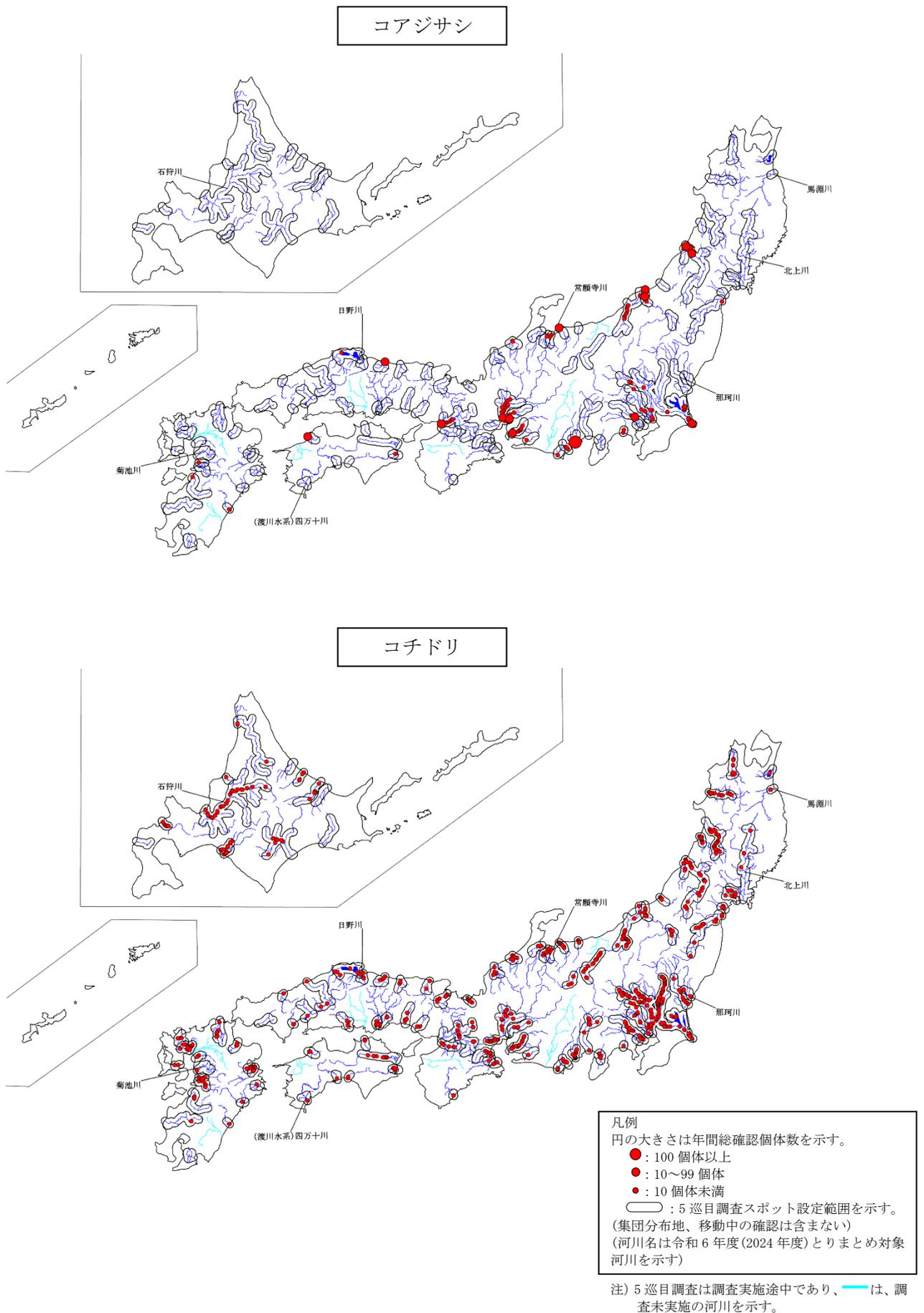
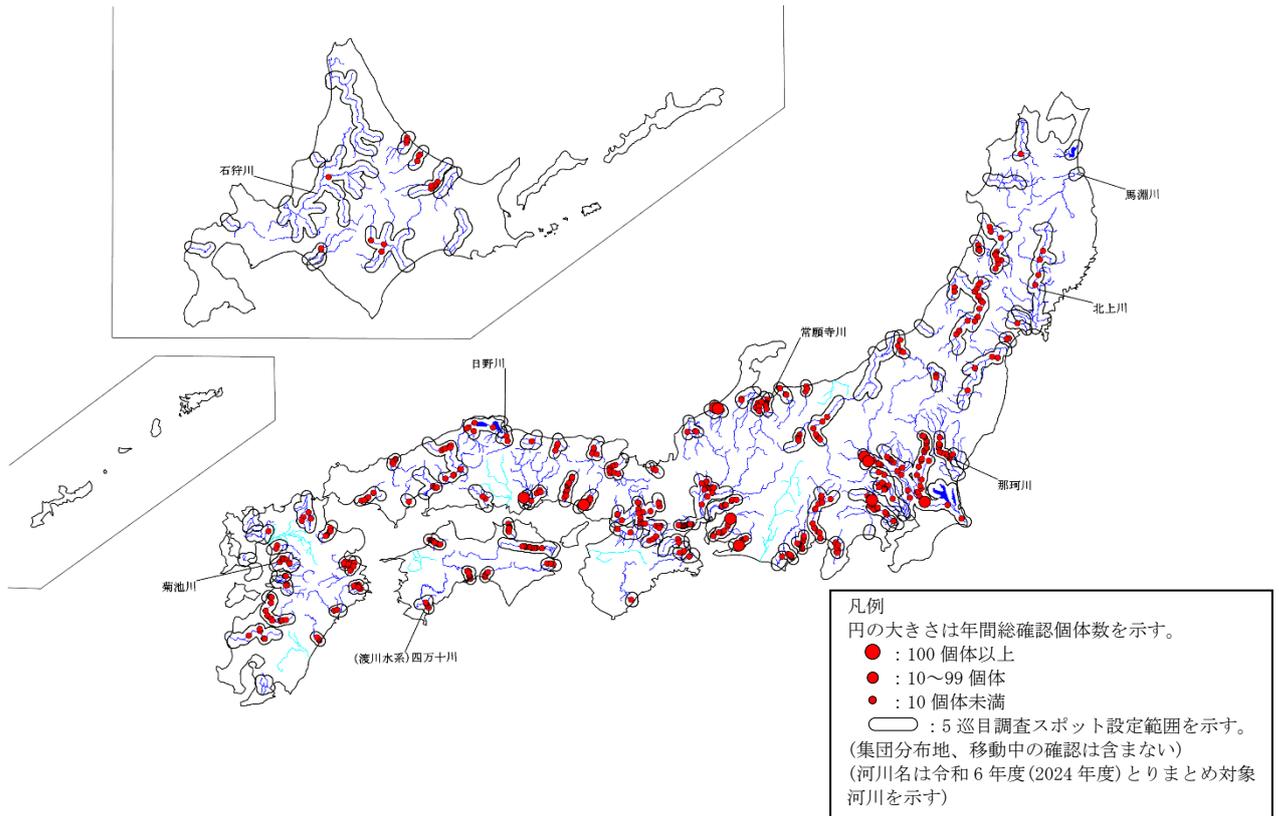


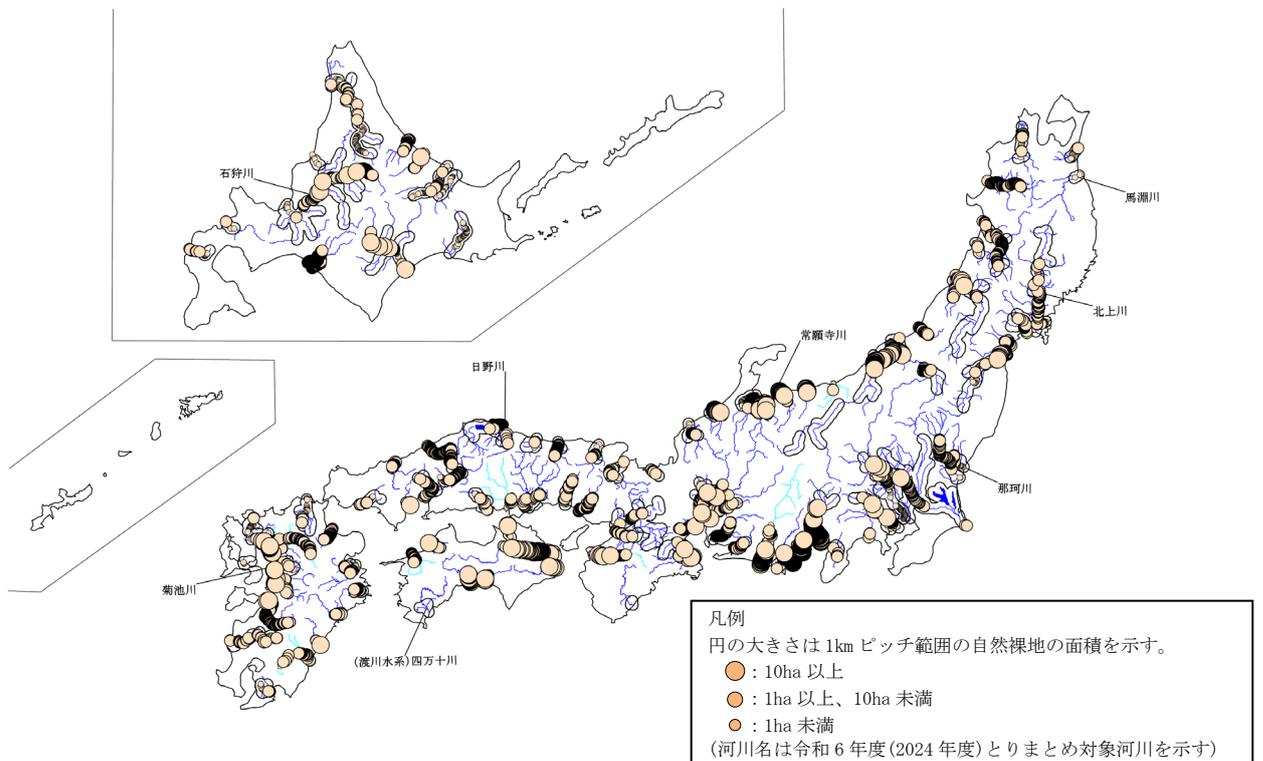
図 4-8 コアジサシ・コチドリの確認スポット (5 巡目調査)

イカルチドリ



注) 5 巡目調査は調査実施途中であり、— は、調査未実施の河川を示す。

図 4-9 イカルチドリの確認スポット (5 巡目調査)



注 1) 当該河川の最近年に実施された河川水辺の国勢調査植物調査結果に基づいた。
 注 2) 5 巡目鳥類調査は調査実施途中であり、— は、調査未実施の河川を示す。

4.3 生物多様性

1) 河川ごとの鳥類相の特徴

河口から上流まで連続的に、鳥類の確認種数や生息環境の指標性ごとの確認個体数を整理し、河川ごとの鳥類相の特徴を検討しました。なお、定量的な分析を行うため、本章ではスポットセンサス調査の結果のみを用いて解析を行いました（4-57～4-58 ページ参照）。

【鳥類の全流程にわたる種数・個体数の分布状況】

（鳥類調査）

・ 越冬期、繁殖期のスポット毎の確認種数、確認個体数、生息環境指標性別の個体数組成比の分布状況は河川毎に多様

鳥類の越冬期と繁殖期別のスポット毎の確認種数、確認個体数と、生息環境指標性別個体数組成比を連続的に整理しました。

越冬期、繁殖期別の確認種数をみると、北海道の石狩川、東北地方の北上川、北陸地方の常願寺川で繁殖期に確認種数が多くなる傾向がみられ、逆に九州地方の菊池川では、越冬期に確認種数が多くなる傾向がみられました。一方、越冬期、繁殖期別の確認個体数では、北海道の石狩川、九州地方の菊池川では、越冬期に確認個体数が多い傾向が見られ、東北地方の北上川、関東地方の那珂川、中国地方の日野川、四国地方の（渡川水系）四万十川では繁殖期に多くなる傾向がみられました。生息環境指標性別個体数組成比は、一部の河川で人家周辺指標種の組成比率が高いスポットが多い傾向がみられましたが、越冬期では河川流水指標種、湖沼静止水面指標種、繁殖期では草原指標種、河川流水指標種の組成比率が高いスポットが、多くの河川でみられました。

（資料掲載：4-27～4-30 ページ）

ここでは、鳥類の越冬期、繁殖期のスポット毎の確認種数と確認個体数、スズメ、ムクドリなどの人家周辺指標種（人家周辺を生息環境とする種）、オオミズナギドリ、カモメなどの海洋指標種（海洋地帯を生息環境とする種）、ツグミ類、オオタカなどの樹林指標種（樹林を生息環境とする種）、カワセミ、ミサゴなどの水辺指標種（水辺を生息環境とする種）、カワウ、マガモなどの河川流水指標種（河川の流水を生息環境とする種）、オオハクチョウ、マガンなどの湖沼静止水面指標種（湖沼などの静止水面を生息環境とする種）など生態的な特徴を指標とする種ごと^{注1)}の個体数組成比率の流程分布を連続的に整理しました。

スポット毎の確認種数をみると、北海道の石狩川、東北地方の北上川、北陸地方の常願寺川で繁殖期に確認種数が多くなる傾向がみられ、逆に九州地方の菊池川では、越冬期に確認種数が多くなる傾向がみられました。その他の河川では、確認種数に季節による大きな差はみられませんでした。スポット毎の確認個体数をみると、北海道の石狩川、九州地方の菊池川では、越冬期に個体数が多い傾向が見られ、東北地方の北上川、関東地方の那珂川、中国地方の日野川、四国地方の（渡川水系）四万十川では繁殖期に多くなる傾向がみられました。

生息環境指標性別個体数組成比は、北海道の石狩川、東北地方の北上川、関東地方の那珂川、で人家周辺指標種の組成比率が高いスポットが多い傾向がみられました。また、季節別に比較すると、越冬期では河川流水指標種、湖沼静止水面指標種が、繁殖期では草原指標種、河川流水指標種の組成比率が高いスポットが、多くの河川でみられました。さらに越冬期に、北海道の石狩川の河口付近では、海岸・砂浜指標種の組成比率が、四国地方の（渡川水系）四万十川、九州地方の菊池川では、河川流水指標種の組成比率が全体的に高い傾向がみられました。

このように河川毎の鳥類相の特徴は、渡りや越冬などの季節的な要因、各スポットの開放水面の面積や河川敷の植生などの河川区域の状況を反映していますが、その他にも河川区域外の都市や人家、田畑、森林などの状況も関係しています。

注1) 出典：原色日本野鳥生態図鑑〈陸鳥編〉〈水鳥編〉。1995. 保育社。

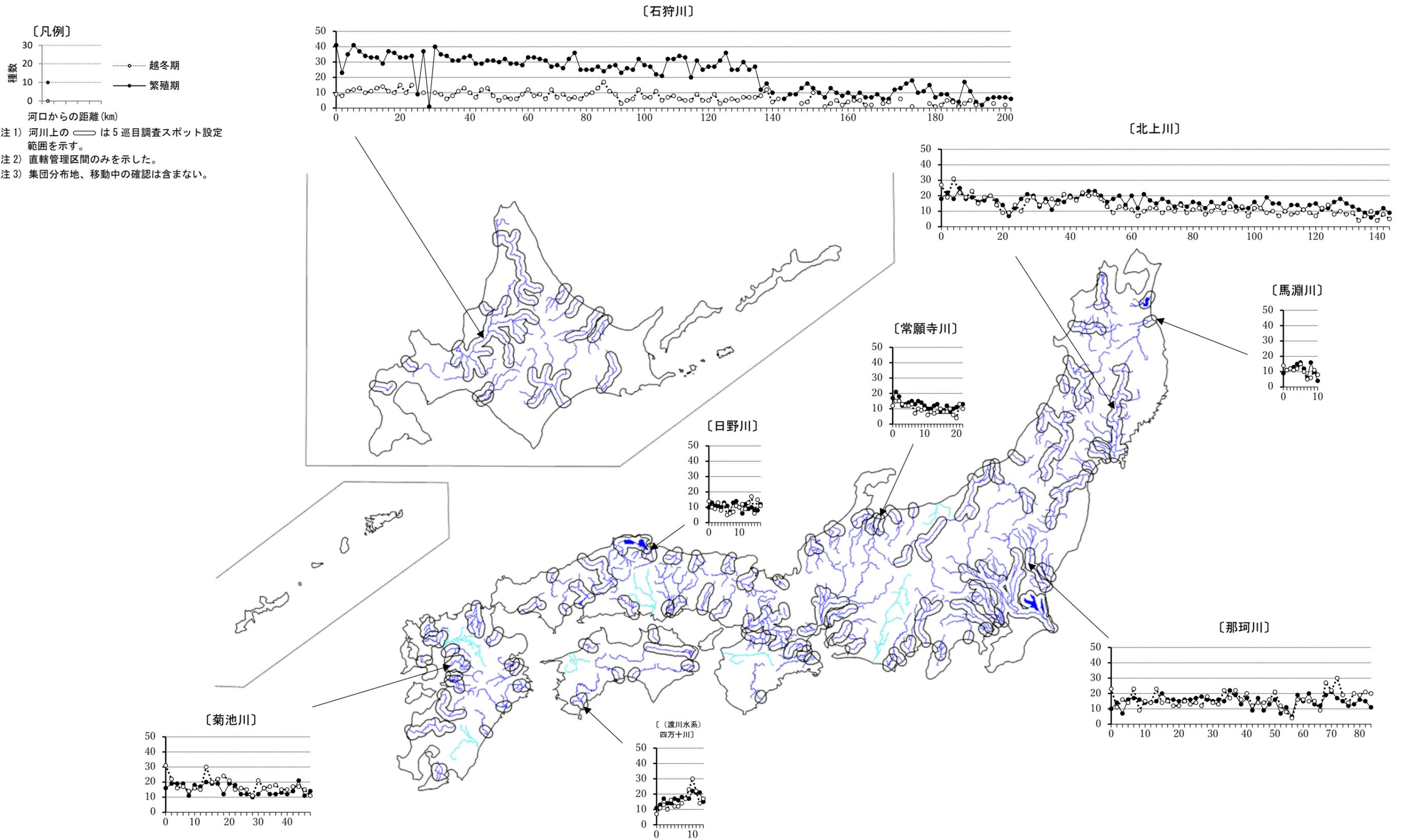


図 4-10 鳥類の確認種類数の流程分布 (令和6年度(2024年度)調査結果)

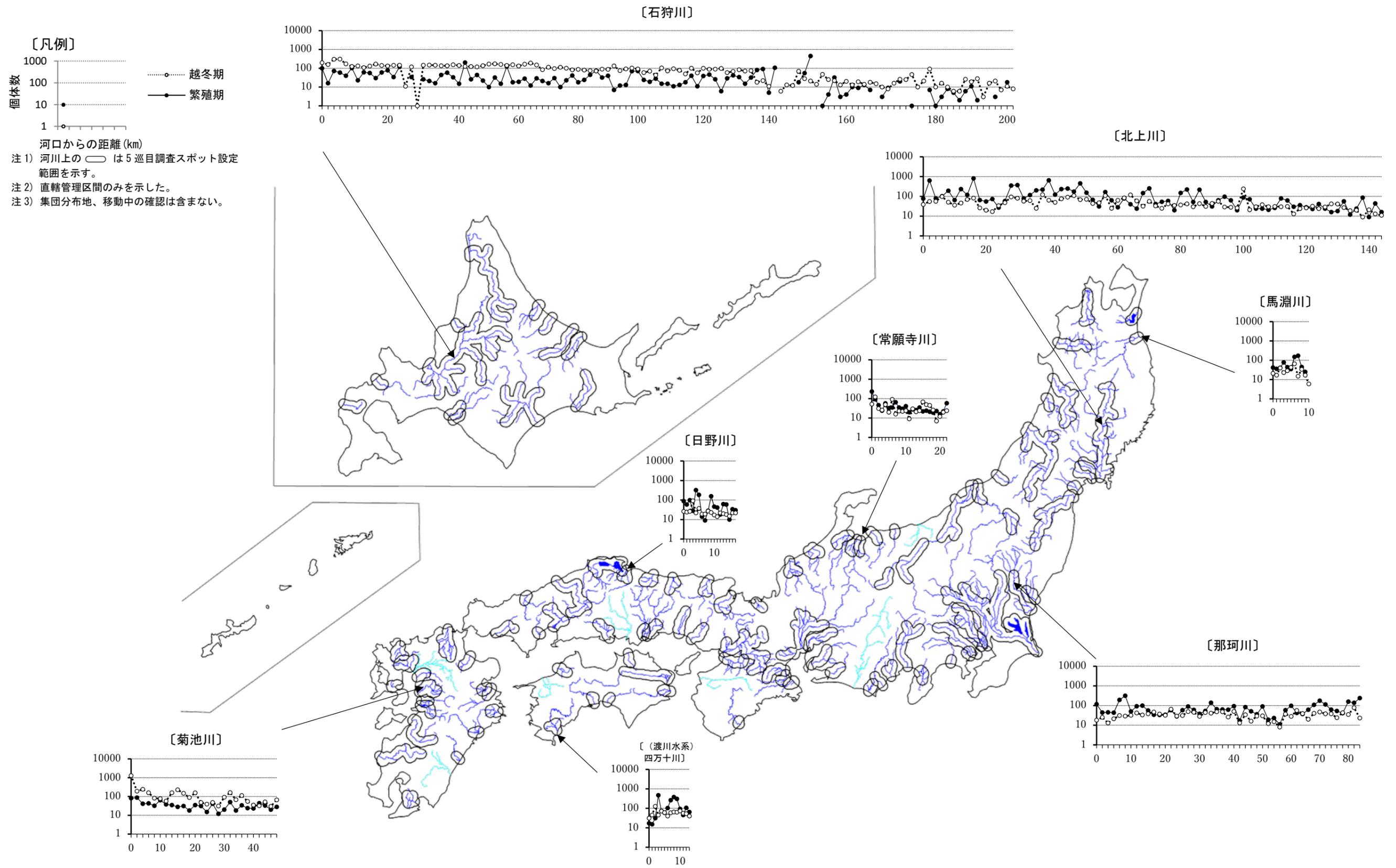
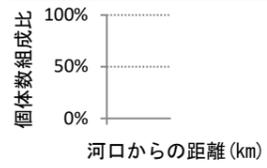


図 4-11 鳥類の確認個体数の流程分布 (令和6年度(2024年度)調査結果)

〔凡例〕

色	指標性	代表種
緑	海洋	カツオドリ、オオグンカントリ、カモ
黄緑	海岸・砂浜	ウミウ、ウミネコ、ハマシギ
赤	砂礫泥地	コイサキ、タケリ、コアシサシ
青	水辺草むら	ヨシコイ、クイナ、タマジキ、ハシ
オレンジ	湖沼静止水面	オオハクチョウ、マガン、スズカモ
水色	河川流水	カワウ、マガモ、カルカモ、オントリ
黄	水辺	ハクセキレイ、カワセミ、ミサコ
黄緑	草原	オオヨシキリ、ヒバリ、チュウビ
茶	樹林	ツクミ類、ホトキス、オオカ
灰	人家周辺	スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス



- 注1) 河川上の ○ は5巡目調査スポット設定範囲を示す。
- 注2) 直轄管理区間のみを示した。
- 注3) 集団分布地、移動中の確認は含まない。
- 注4) 調査スポットが設定されていない地点および代表種が確認されなかった場合は、個体数組成比を0%として示している。

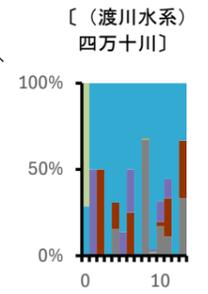
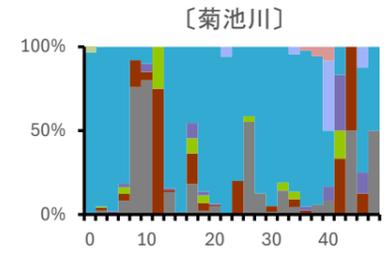
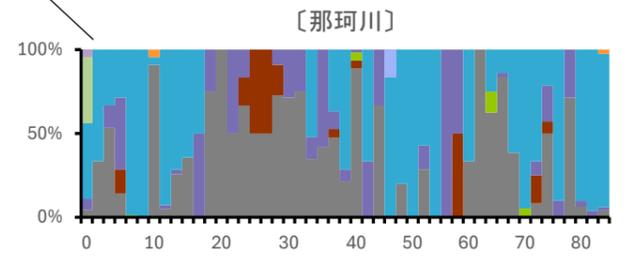
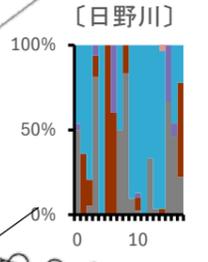
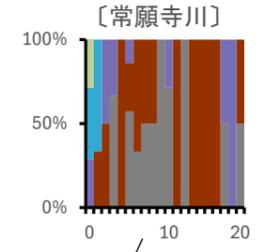
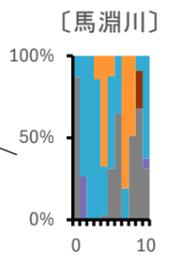
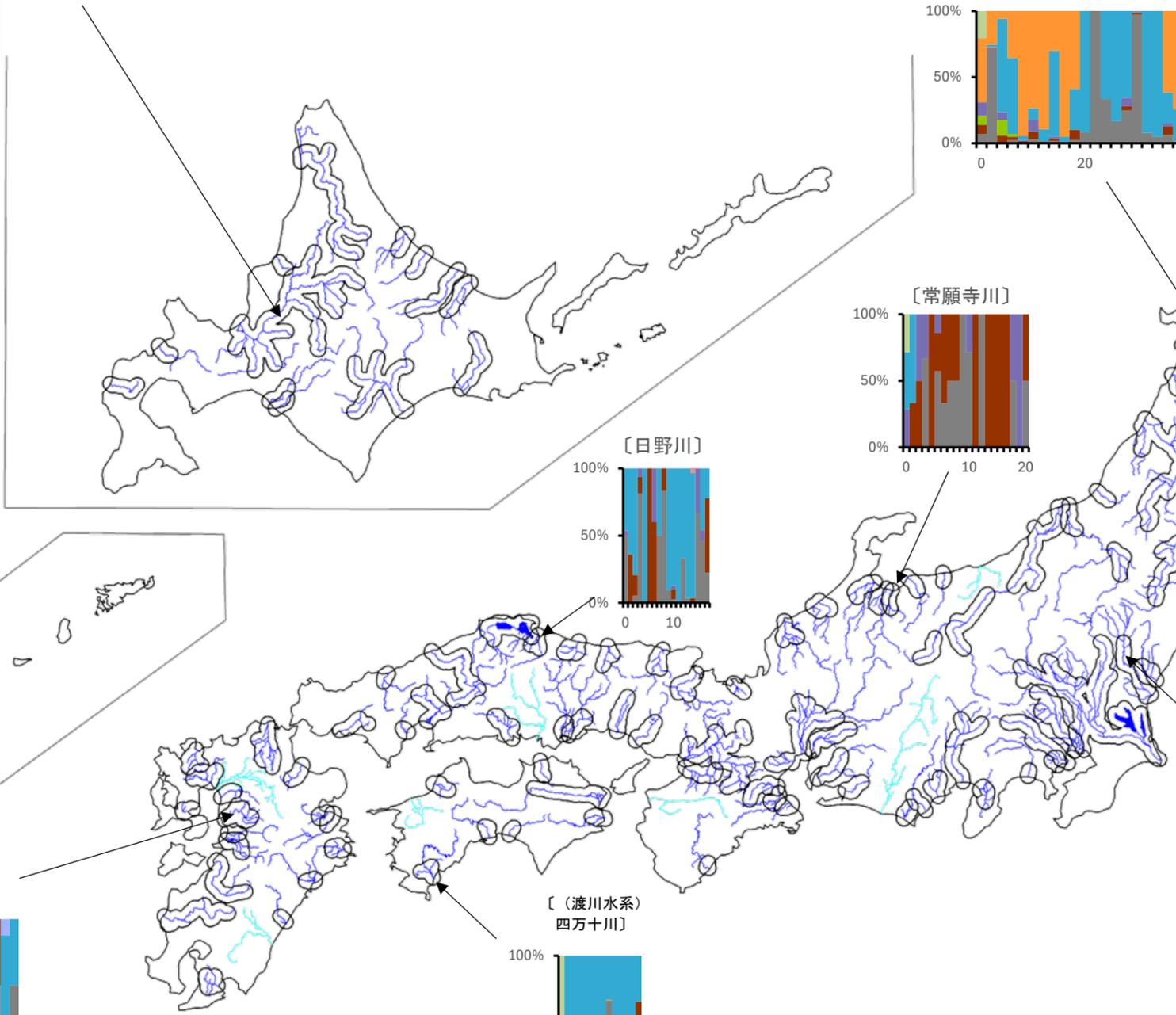
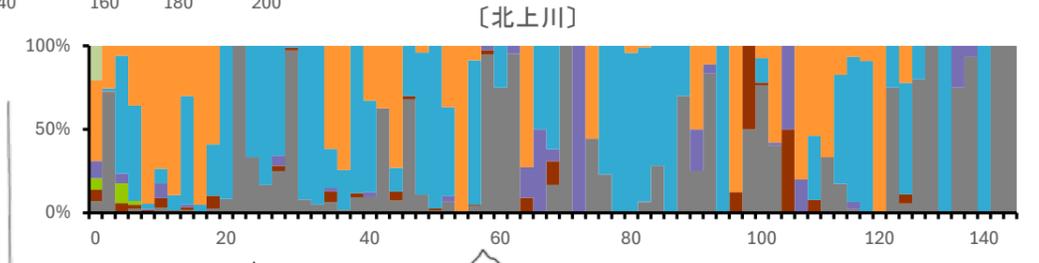
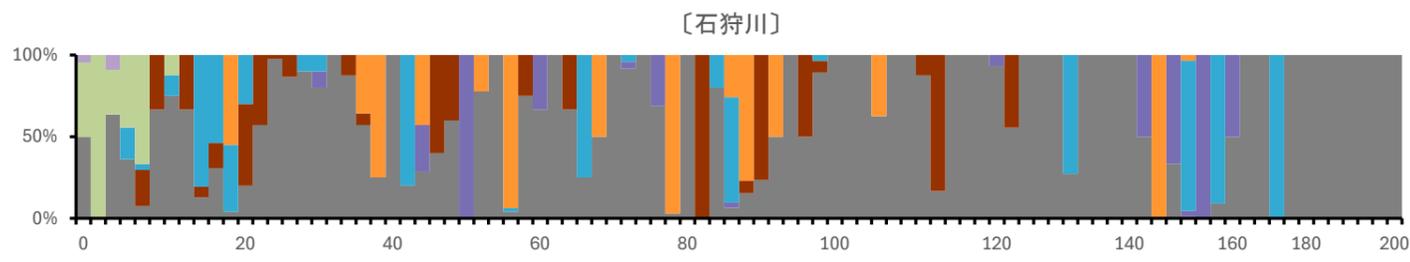
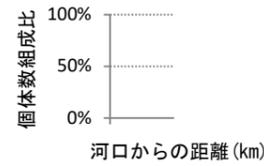


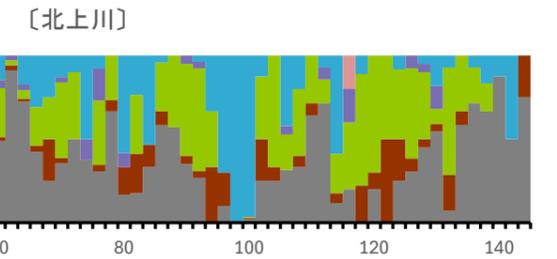
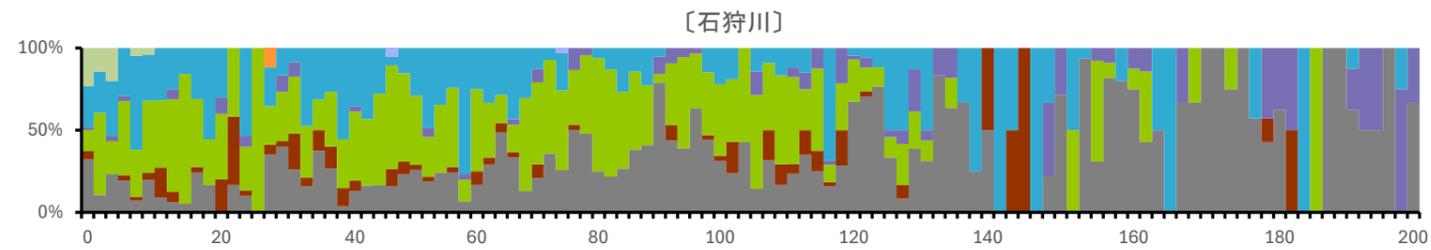
図 4-12 鳥類の生息環境指標性別個体数組成比の流程分布 (令和6年度(2024年度)調査結果;越冬期)

〔凡例〕

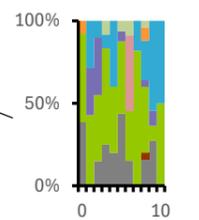
色	指標性	代表種
青	海洋	カツオドリ、オウゴンカントドリ、カモメ
緑	海岸・砂浜	ウミウ、ウミネコ、ハマシギ
赤	砂礫泥地	ゴイサギ、タゲリ、コアジサシ
黄	水辺草むら	ヨシコイ、クイナ、タマシギ、ハシ
紫	湖沼静止水面	オオハクチョウ、マガン、スズカモ
黒	河川流水	カワウ、マカモ、カルカモ、オシドリ
白	水辺	ハクセキレイ、カワセミ、ミサゴ
茶	草原	オオヨシキリ、ヒバリ、チュウビ
緑	樹林	ツグミ類、ホトトギス、オオカ
黒	人家周辺	スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス



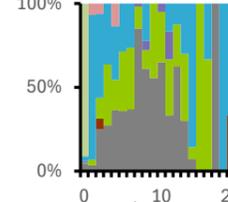
- 注1) 河川上の は5巡回調査スポット設定範囲を示す。
- 注2) 直轄管理区間のみを示した。
- 注3) 集団分布地、移動中の確認は含まない。
- 注4) 調査スポットが設定されていない地点および代表種が確認されなかった場合は、個体数組成比を0%として示している。



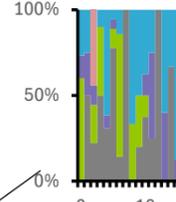
〔馬淵川〕



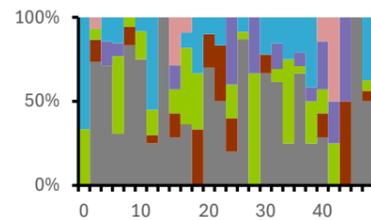
〔常願寺川〕



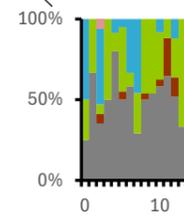
〔日野川〕



〔菊池川〕



〔(渡川水系) 四万十川〕



〔那珂川〕

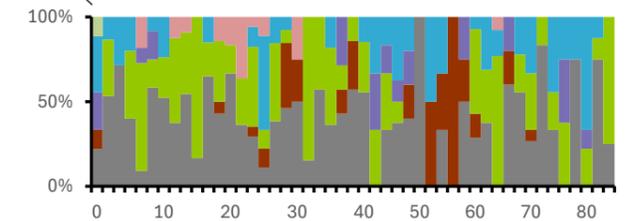


図 4-13 鳥類の生息環境指標性別個体数組成比の流程分布 (令和6年度(2024年度)調査結果;繁殖期)

2) 生物多様性の攪乱^{かくらん}

鳥類の場合、渡り鳥のように自ら大移動を行う種も多くいますが、アヒルなどのように家禽として飼われていたものや、ガビチョウなどのようにペットとして飼われていたものが逃げ出し、野生化して自然界へ広がっている例もみられます。このような国外外来種が生態的に優勢な場合、在来の生物種が捕食されたり、餌や生息環境が競合したり、自然界では起こらない交雑によって地域で保有されていた固有な遺伝子の喪失をもたらしたりすることで、生態系へ様々な影響を与えることが懸念されています。

ここでは、河川水辺の国勢調査結果を用いて、特定外来生物の侵入・拡大状況の観点から、特定外来生物に指定されているガビチョウ、ソウシチョウなどの確認状況について整理しました。なお、定量的な分析を行うため、本章ではスポットセンサス調査の結果のみを用いて詳細な統計解析を行いました（4-57～4-58 ページ参照）。

【生物多様性の攪乱^{かくらん}：特定外来生物の確認状況】

（鳥類調査）

- ・ 国外外来種で特定外来生物に指定されているガビチョウは、今回取りまとめを行った8河川のうち2河川、ヒゲガビチョウは1河川、ソウシチョウは2河川で確認

国外外来種で特定外来生物に指定されているガビチョウ、ヒゲガビチョウ、カオグロガビチョウ、カオジロガビチョウ、ソウシチョウについて確認状況を整理しました。

ガビチョウは、今回とりまとめを行った8河川のうち、関東地方の那珂川、九州地方の菊池川の2河川で確認されました。

ヒゲガビチョウは、四国地方の（渡川水系）四万十川で確認されました。本種は、河川水辺の国勢調査では初めての確認となります。

また、ソウシチョウは今回とりまとめを行った8河川のうち、関東地方の那珂川、四国地方の（渡川水系）四万十川の2河川で確認されました。河川水辺の国勢調査では初めての確認となります。

なお、カオグロガビチョウ、カオジロガビチョウは今回の調査では確認されませんでした。

（資料掲載：4-35～4-37 ページ、4-57～4-58 ページ）

特定外来生物に指定されており、生態系被害防止外来種リストにも選定されているガビチョウ、ヒゲガビチョウ、カオジロガビチョウ、カオグロガビチョウ、ソウシチョウは、いずれも東アジア、東南アジアを原産とする種ですが、主に鳴き声を楽しむためのペットとして輸入されていました^{注1)}。また、ソウシチョウは、観賞用のほか伝統的な化粧品であるウグイスの糞の代用品を採取するために飼育されていたこともあります。いずれも飼育個体の逃亡ないしは故意の放出が、野外への定着の主因であるとされています。主に低地林に定住し、これらの種が優占しているところもみられ、長期的には在来種への直接・間接の負の影響も懸念されています^{注2)}。

今回とりまとめを行った8河川のうち、ガビチョウは、関東地方の那珂川、九州地方の菊池川ともに、4巡目に引き続き確認されました。ヒゲガビチョウは、四国地方の（渡川水系）四万十川で確認され、河川水辺の国勢調査では初めての確認となります。ソウシチョウは関東地方の那珂川、四国地方の（渡川水系）四万十川で河川水辺の国勢調査としては初めて確認されました。カオグロガビチョウ、カオジロガビチョウは今回の調査では確認されませんでした。

今回、初めて確認されたヒゲガビチョウは、愛媛県、高知県、香川県など四国地方を中心に定着・繁殖が確認されており、分布の拡大が懸念されています。

確認状況を比較すると、ガビチョウ、ソウシチョウは調査実施河川数に占める確認された河川数の割合が2～5巡目調査で次第に高くなる傾向にありました。

確認地点数が多いガビチョウとソウシチョウについて、調査方法が同じスポットセンサスの調査を対象とし、確認率（確認スポット数／調査スポット数）に4巡目と5巡目で差があるかどうかを、ウィルコクソンの符号付き順位検定^{注3)}によって検討しました。また、個体数密度（総確認個体数／調査スポット数）の変化についても、ウィルコクソンの符号付き順位検定^{注3)}によって検討しました（棄却域0.05、両側検定）。なお、個体数密度の検定のみ、4巡目と5巡目とも記録がない河川を除外しました（ガビチョウ：N=23、ソウシチョウ：N=26）。ガビチョウとソウシチョウは、記録がない河川が多く、これらを検定に含めると検定結果に影響を与えるためです。

その結果、ガビチョウでは、確認率、個体数密度ともに有意な増加傾向が確認されました。一方、ソウシチョウでは確認率、個体数密度ともに有意な差は確認されませんでした。

ガビチョウおよびソウシチョウを飼育することは、外来生物法によって原則禁止されており、飼育のほか保管、運搬、輸入も禁止されているため、注意が必要です。

注1) 出典：日本の外来生物，2008，財団法人自然環境研究センター，平凡社。

注2) 出典：環境省ホームページ／日本の外来種対策／特定外来生物等一覧／鳥類

<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list.html>

注3) 統計学辞典，(2017)，栗原伸一・丸山敦史/共著 オーム社



表 4-7 1～5 巡目調査の確認河川数の比較

種類	1巡目 (81河川)	2巡目 (118河川)	3巡目 (122河川)	4巡目 (123河川)	5巡目 (115河川)
ガビチョウ	1河川 〔1.2%〕	0河川 〔0.0%〕	8河川 〔6.6%〕	18河川 〔14.6%〕	28河川 〔24.3%〕
ヒゲガビチョウ	0河川 〔0.0%〕	0河川 〔0.0%〕	0河川 〔0.0%〕	0河川 〔0.0%〕	1河川 〔0.9%〕
カオグロガビチョウ	0河川 〔0.0%〕	2河川 〔1.7%〕	1河川 〔0.8%〕	0河川 〔0.0%〕	2河川 〔1.7%〕
カオジロガビチョウ	0河川 〔0.0%〕	0河川 〔0.0%〕	0河川 〔0.0%〕	2河川 〔1.6%〕	5河川 〔4.3%〕
ソウシチョウ	0河川 〔0.0%〕	1河川 〔0.8%〕	7河川 〔5.7%〕	19河川 〔15.4%〕	26河川 〔22.6%〕

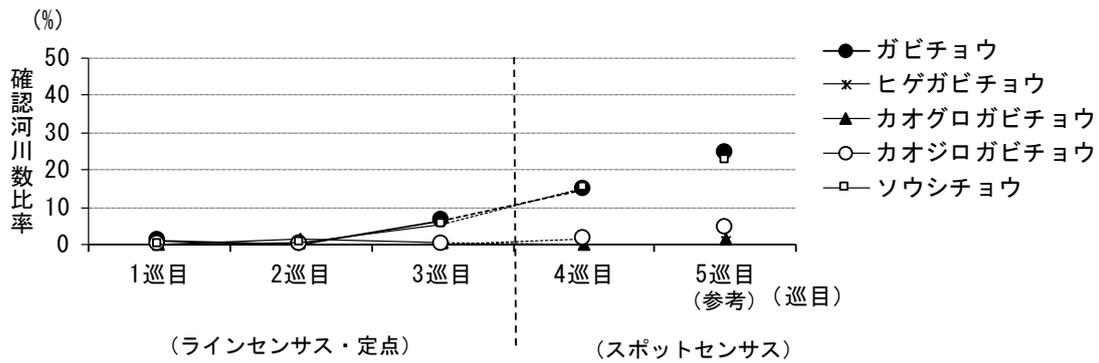
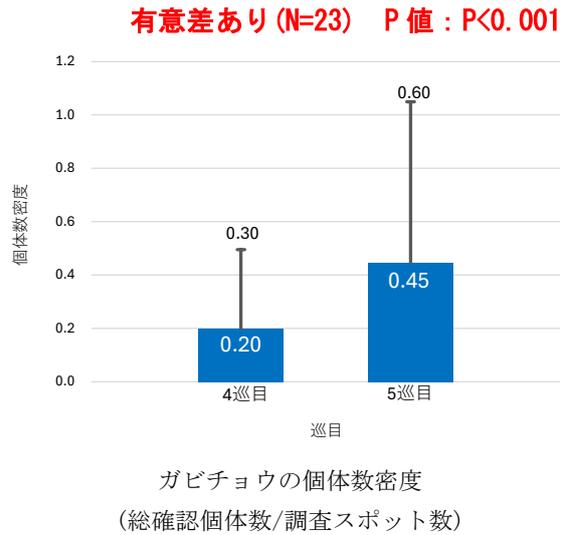
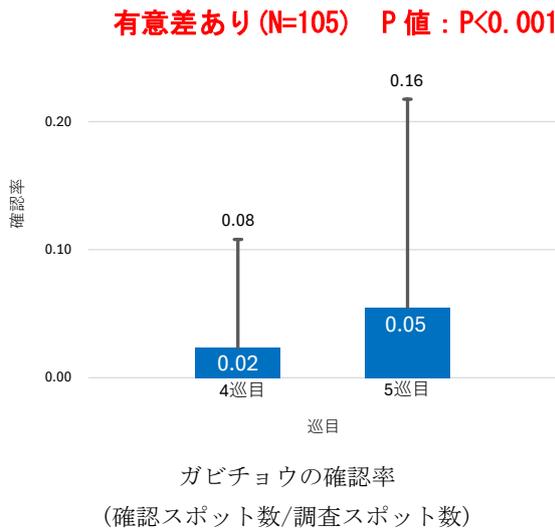


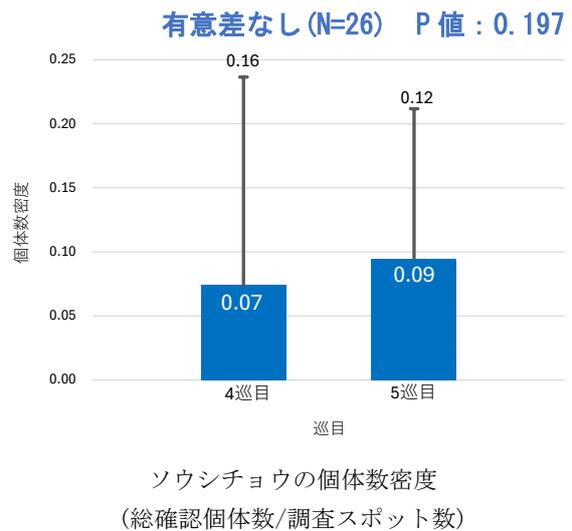
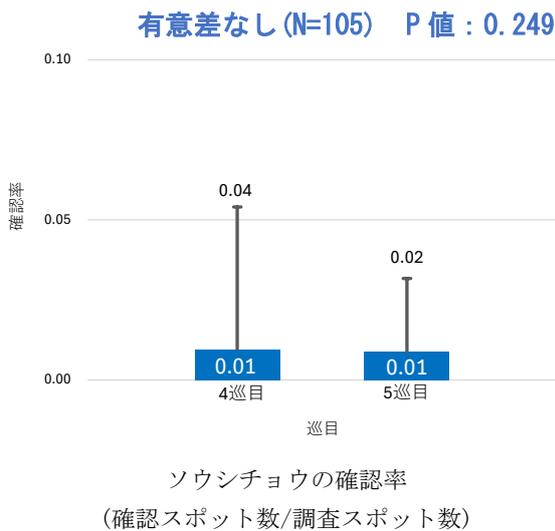
図 4-14 確認河川数比率の変化

- ※ 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。
- ※ 1～4 巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。
- ※ () 内は調査実施河川数を示す。
- ※ [] 内は確認河川数の調査実施河川数に対する割合 (%) を示す。
- ※ 4 巡目からは、調査方法を調査地区対象のラインセンサス調査から河川全体の調査箇所における分布の確認を主としたスポットセンサス調査に変更した。
- ※ 5 巡目は調査途中であり、掲載しているデータは平成 28～令和 6 年度(2016～2024 年度)の調査結果を示す。



※棒グラフは平均値、ひげは標準偏差を示す。

図 4-15 ウィルコクソンの符号付き順位検定 (ガビチョウ)



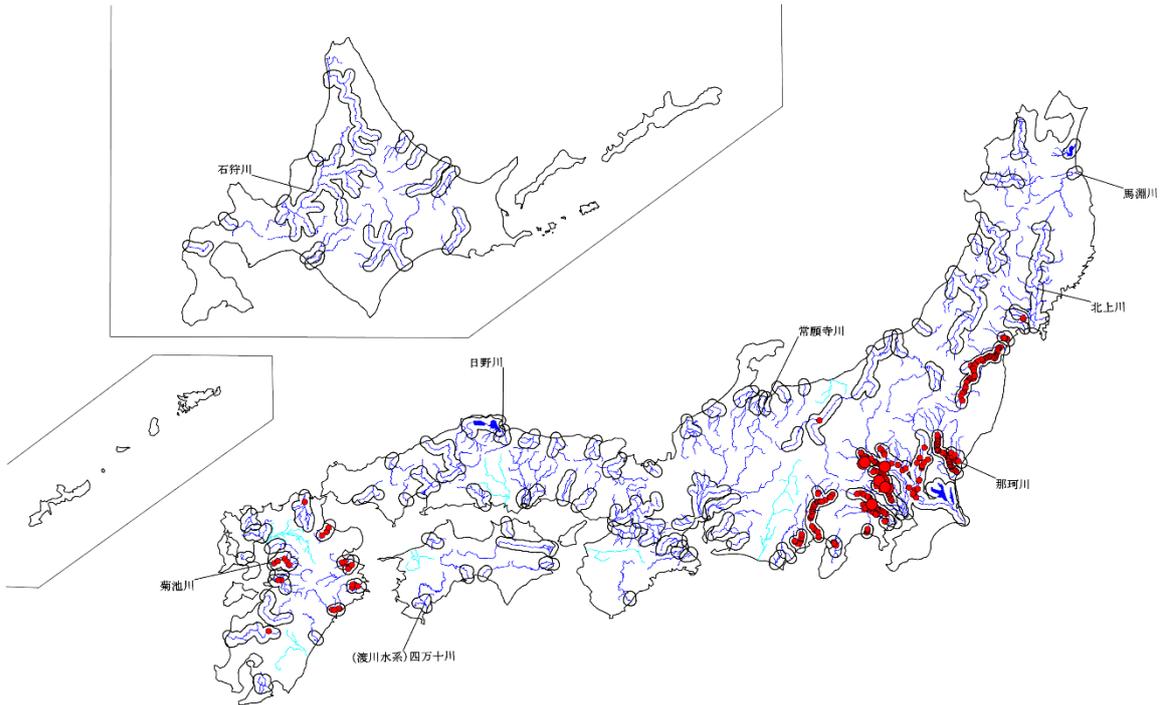
※棒グラフは平均値、ひげは標準偏差を示す。

図 4-16 ウィルコクソンの符号付き順位検定 (ソウシチョウ)

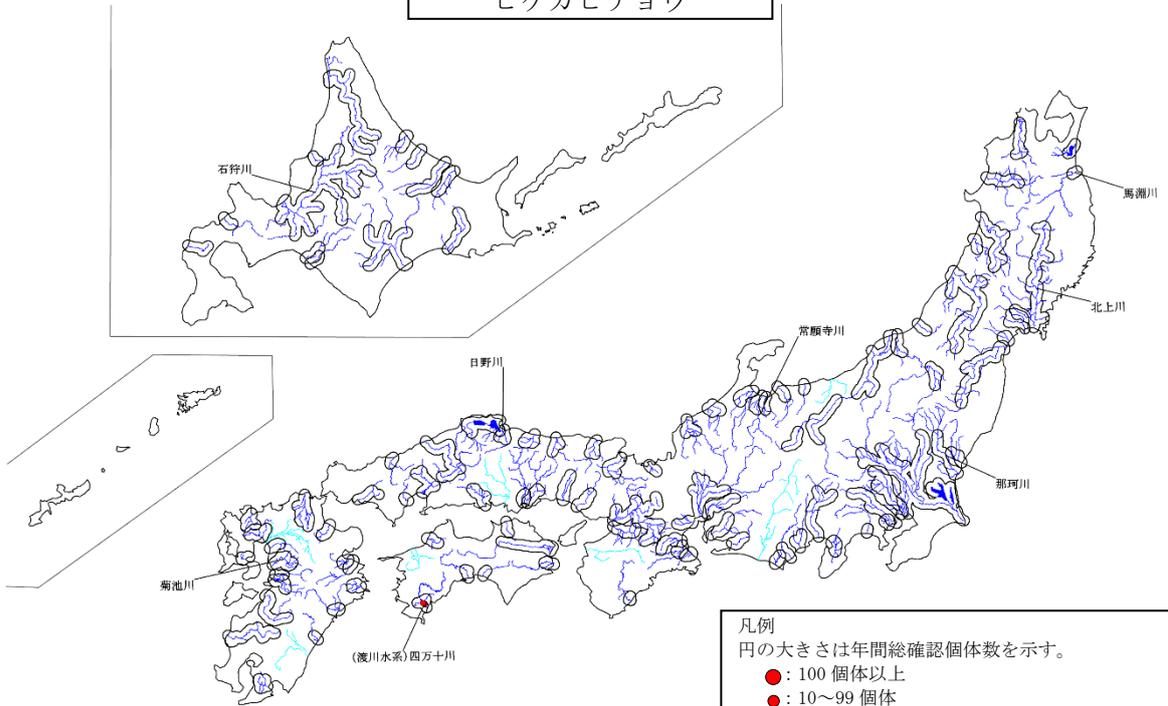
※特定外来生物とは、『特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（最終改正および施行 令和7年6月）』により、輸入や飼養等が規制されている生物（生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれる）です。おおむね明治以降に国外から導入された国外外来種のうち、生態系、人の生命・身体および農林水産業へ被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがある生物が指定されています。

生態系被害防止外来種リスト（我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト）とは、我が国の生物多様性を保全するため、さまざまな主体の参画のもとで外来種対策の一層の進展を図ることを目的とし、環境省および農林水産省が「生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼすまたはそのおそれがある生物」を生態的特性および社会的状況も踏まえて選定した外来種リストです。リスト中には外来生物法で指定された生物も含まれています。

ガビチョウ



ヒゲガビチョウ



凡例
 円の大きさは年間総確認個体数を示す。
 ● : 100 個体以上
 ● : 10~99 個体
 ● : 10 個体未満
 ○ : 5 巡目調査スポット設定範囲を示す。
 (集団分布地、移動中の確認は含まない)
 (河川名は令和 6 年度(2024 年度)とりまとめ対象河川を示す)

注) 5 巡目調査は調査実施途中であり、— は、調査未実施の河川を示す。

図 4-17 ガビチョウ・ヒゲガビチョウの確認スポット (5 巡目調査)

ソウシチョウ

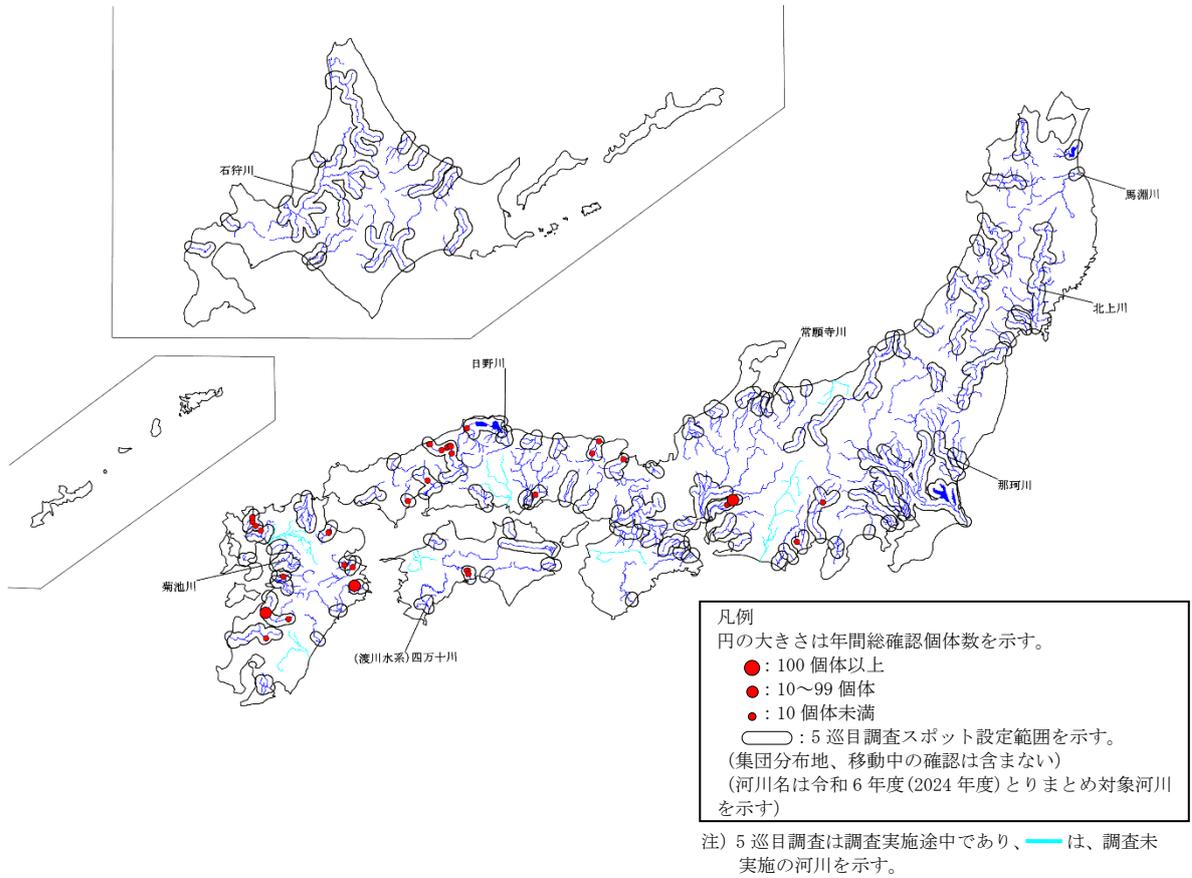


図 4-19 ソウシチョウの確認スポット (5 巡目調査)

4.4 気候変動

地球温暖化による気候変動の影響で、冬鳥の越冬地が北の方に移動することや、夏鳥が冬になっても南の方に帰らなくなる可能性が指摘されています^{注1)}。

ここでは、そのような渡り鳥（越冬ツバメ、マガン、陸ガモ）の確認状況を整理しました。なお、定量的な分析を行うため、本章ではスポットセンサス調査の結果のみを用いて詳細な統計解析を行いました（4-57～4-58 ページ参照）。

【越冬ツバメの確認状況】

（鳥類調査）

- ・ 越冬ツバメは1河川で確認

越冬期のツバメは今回取りまとめを行った8河川のうち四国地方の（渡川水系）四万十川で確認されました。

（資料掲載：4-40～4-41 ページ、4-57～4-58 ページ）

表 4-8 1～5 巡目調査の確認河川数の比較

種類	1巡目 (81河川)	2巡目 (118河川)	3巡目 (122河川)	4巡目 (123河川)	5巡目 (115河川)
ツバメ（越冬期）	4河川 〔4.9%〕	10河川 〔8.5%〕	11河川 〔9.0%〕	14河川 〔11.4%〕	19河川 〔16.5%〕

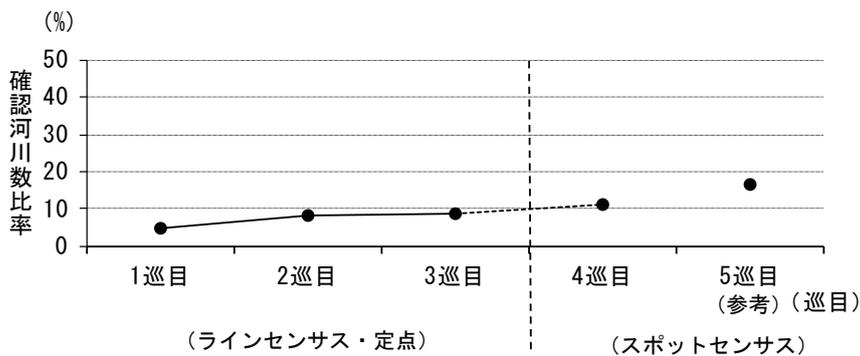


図 4-20 確認河川数比率の変化

- ※ 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。
- ※ 1～4 巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。
- ※ () 内は調査実施河川数を示す。
- ※ [] 内は確認河川数の調査実施河川数に対する割合 (%) を示す。
- ※ 4 巡目からは、調査方法を調査地区対象のラインセンサス調査から河川全体の調査箇所における分布の確認を主としたスポットセンサス調査に変更した。
- ※ 5 巡目は調査途中であり、掲載しているデータは平成 28～令和 6 年度 (2016～2024 年度) の調査結果を示す。

ツバメは日本全国に夏鳥として飛来します。人家や建造物の軒下に泥でお椀型の巣を作り、卵を産みます。孵化したひな鳥に親鳥が餌を運んでくる様子を間近で見られるなど、とても身近な野鳥です。秋になると台湾、フィリピン、マレー半島などに渡り越冬します^{注2)}。

ツバメは、今回とりまとめを行った8河川すべてで、春の渡りから秋の渡りにかけて確認されました。また越冬期では、8河川のうち、四国地方の（渡川水系）四万十川で確認され、ツバメだけではなく、イワツバメの群れ（131 個体）も確認されています。

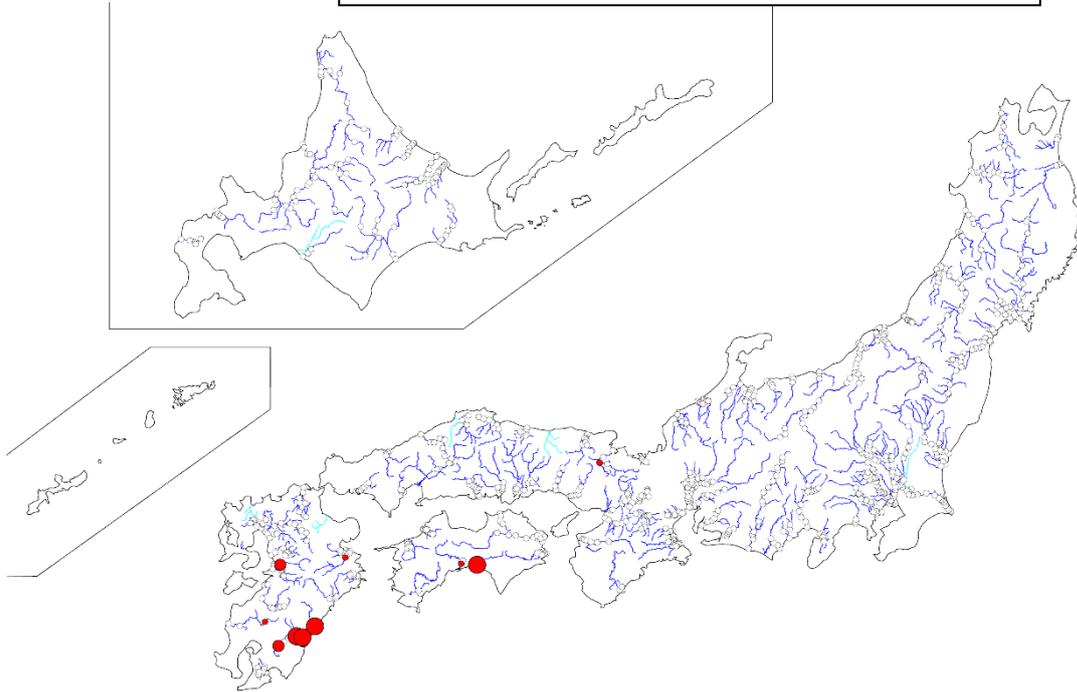
越冬期の確認状況を比較すると、1～4 巡目調査では、九州地方の南部で確認個体数が多い傾向がみられました。また、調査実施河川数に占める越冬ツバメの確認された河川数の割合は増加傾向にあります。これらの現象が地球温暖化による気候変動の影響かどうかはまだ分かりませんが、地球温暖化が進行すると、越冬ツバメの個体数や越冬箇所が全国的に増えることや、ツバメの初見時期が早くなっていくことが考えられ、今後も注目していく必要があります。

注1) 出典：佐藤文男. 2006. 温暖化ウォッチ (11) ～データから読み取る～渡り鳥の変化は何が原因か. 地球環境研究センターニュース Vol. 17 No. 3

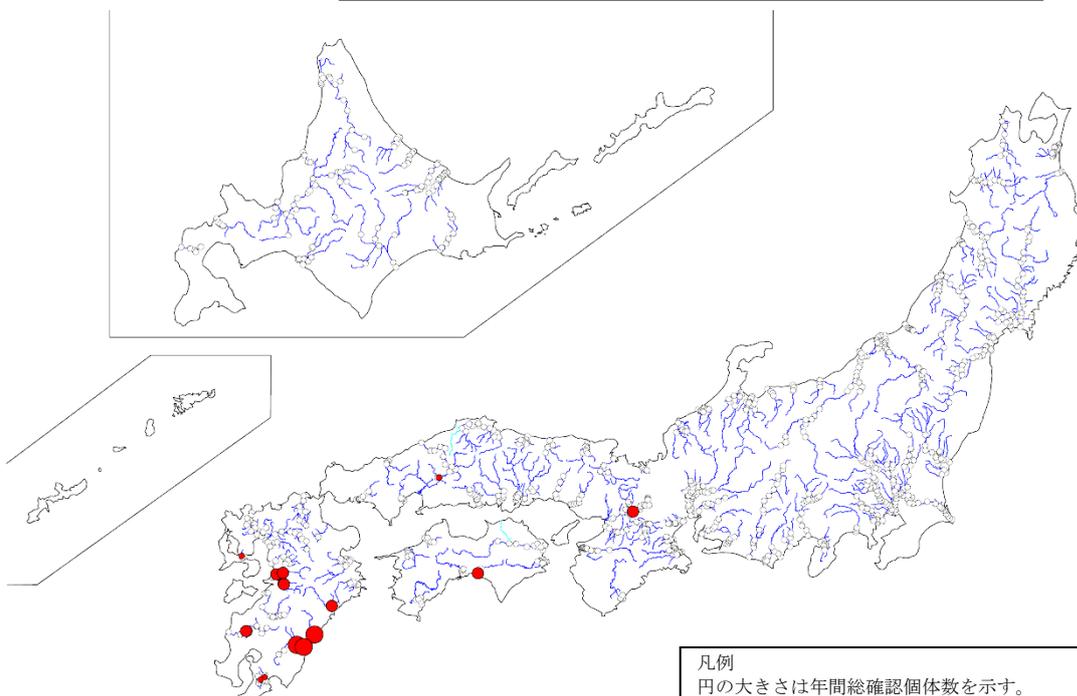
注2) 出典：原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>. 1995. 保育社.



2 巡目調査 (平成 8～12 年度 (1996～2000 年度))



3 巡目調査 (平成 13～17 年度 (2001～2005 年度))

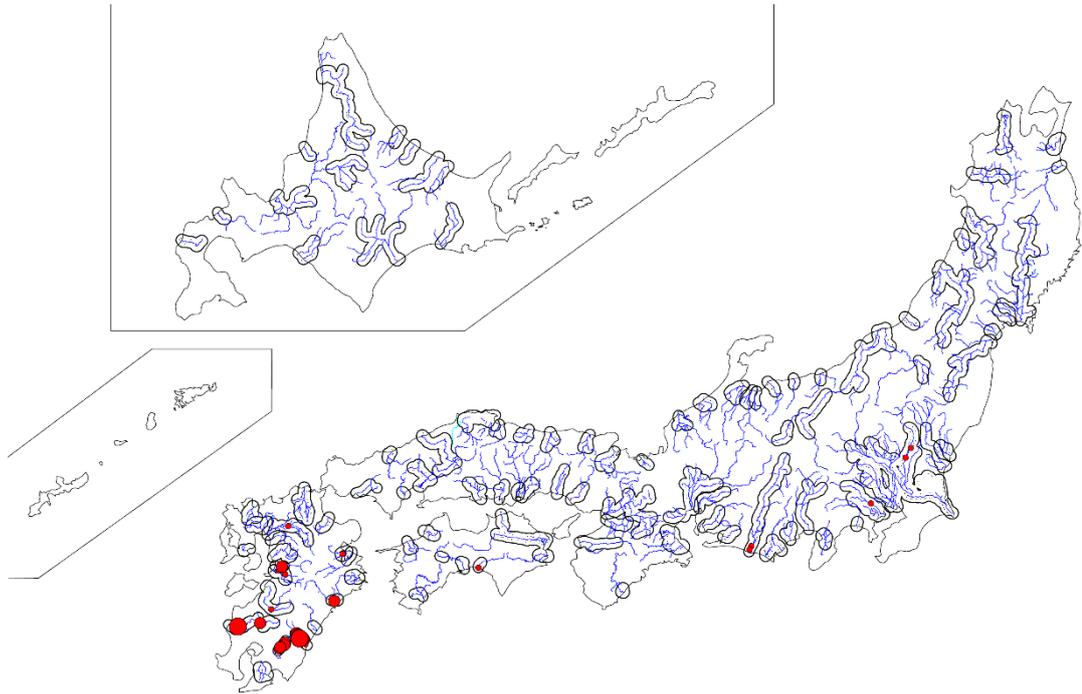


凡例
 円の大きさは年間総確認個体数を示す。
 ● : 100 個体以上
 ● : 10～99 個体
 ● : 10 個体未満
 ○ : 未確認
 (集団分布地、移動中の確認は含まない)

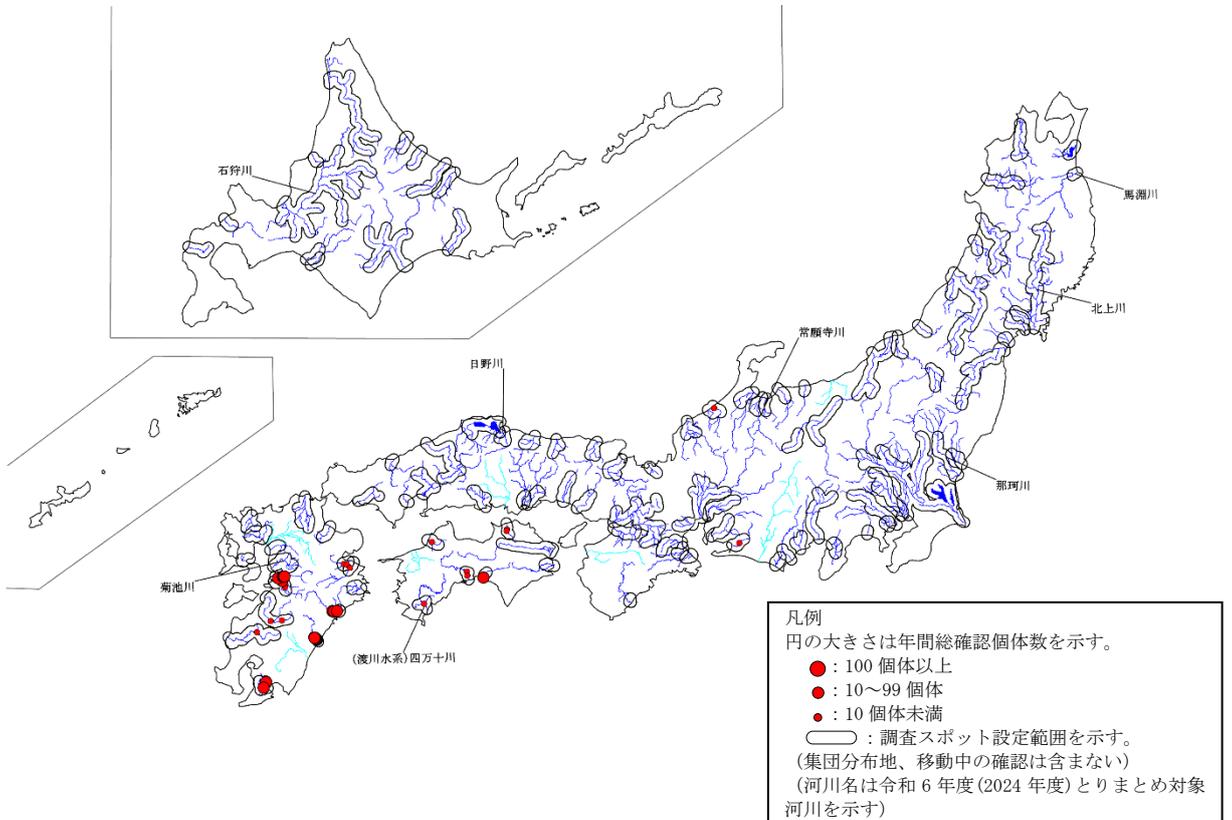
注 1) 〓 は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
 注 2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

図 4-21 越冬期のツバメの確認地区 (2 巡目調査、3 巡目調査) (1/2)

4 巡目調査 (平成 18~27 年度(2006~2015 年度))



5 巡目調査 (平成 28~令和 6 年度(2016~2024 年))



注) 5 巡目調査は調査実施途中であり、— は、調査未実施の河川を示す。

図 4-21 越冬期のツバメの確認スポット (4 巡目調査、5 巡目調査) (2/2)

【マガンの確認状況】

(鳥類調査)

・ マガンは、2 河川で確認
 マガンは、今回取りまとめを行った 8 河川のうち、北海道の石狩川、東北地方の北上川の 2 河川で越冬しているのが確認されました。北海道の石狩川では、秋渡り期にも数多くの個体が確認されました。

(資料掲載： 4-44～4-45 ページ、 4-57～4-58 ページ)

表 4-9 1～5 巡目調査の確認河川数の比較

種類	1巡目 (81河川)	2巡目 (118河川)	3巡目 (122河川)	4巡目 (123河川)	5巡目 (115河川)
マガン	8河川 [9.9%]	19河川 [16.1%]	15河川 [12.3%]	18河川 [14.6%]	24河川 [20.9%]

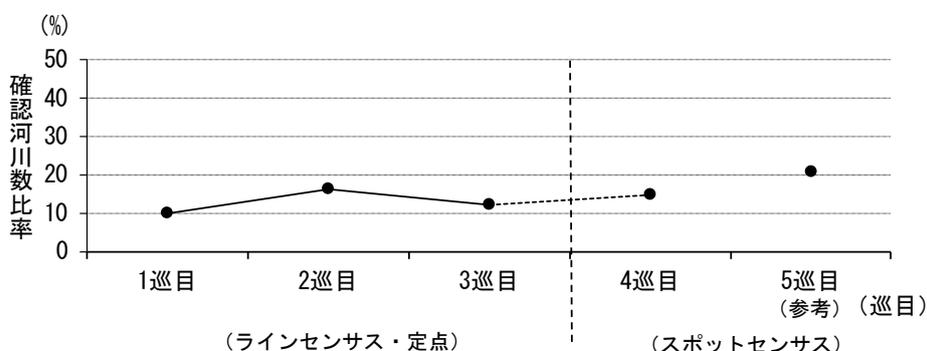


図 4-22 確認河川数比率の変化

- ※ 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。
- ※ 1～4 巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。
- ※ () 内は調査実施河川数を示す。
- ※ [] 内は確認河川数の調査実施河川数に対する割合 (%) を示す。
- ※ 4 巡目からは、調査方法を調査地区対象のラインセンサス調査から河川全体の調査箇所における分布の確認を主としたスポットセンサス調査に変更した。
- ※ 5 巡目は調査途中であり、掲載しているデータは平成 28～令和 6 年度 (2016～2024 年度) の調査結果を示す。

マガンは、夏季にロシア北部、カナダ、アラスカ、グリーンランドで繁殖し、冬季に本州、九州に越冬のため局地的に飛来する冬鳥で、北海道では渡りの途中に飛来します^{注1)}。かつてマガンは、日本中で見られる冬鳥でしたが、環境の悪化や狩猟によって減少しました。1970 年代に狩猟禁止や天然記念物指定などの保護策がとられると 1980 年代に増加に転じましたが、近年では保護策だけでは説明できないほどの増加傾向にあります。

その原因として、繁殖地である極東ロシアの温暖化による餌条件や繁殖成功率の向上による個体数の増加の可能性が指摘されています^{注2)}。また、温暖化により渡りの時期が変化する可能性や、日本国内での越冬地が北上する可能性も考えられます。

マガンは、今回取りまとめを行った 8 河川のうち、北海道の石狩川、東北地方の北上川の 2 河川で越冬しているのが確認されました。経年的な確認状況を比較すると、1～5 巡目調査において、調査実施河川数に占める確認された河川数の割合に大きな変化はみられませんでした。しかし、マガンの越冬期の確認状況については、3 巡目調査までは本州以南の河川のみでした

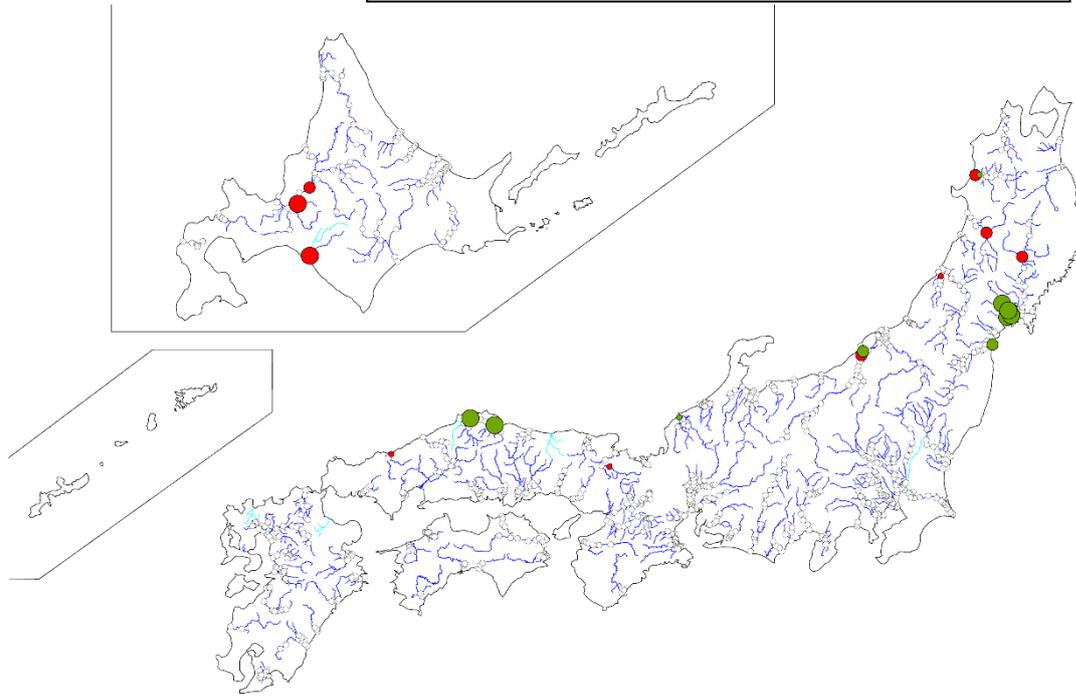
が、4巡目調査以降では北海道でも越冬期に確認されるようになってきており、本州でも通過のみであった東北地方の河川で越冬期の確認が増えるなど、やや越冬場所が分散する傾向が見られています。今後ともマガンの確認状況などに注目していくことが必要と考えられます。

注1) 出典：環境省編. 2014. 「レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物- 2 鳥類」

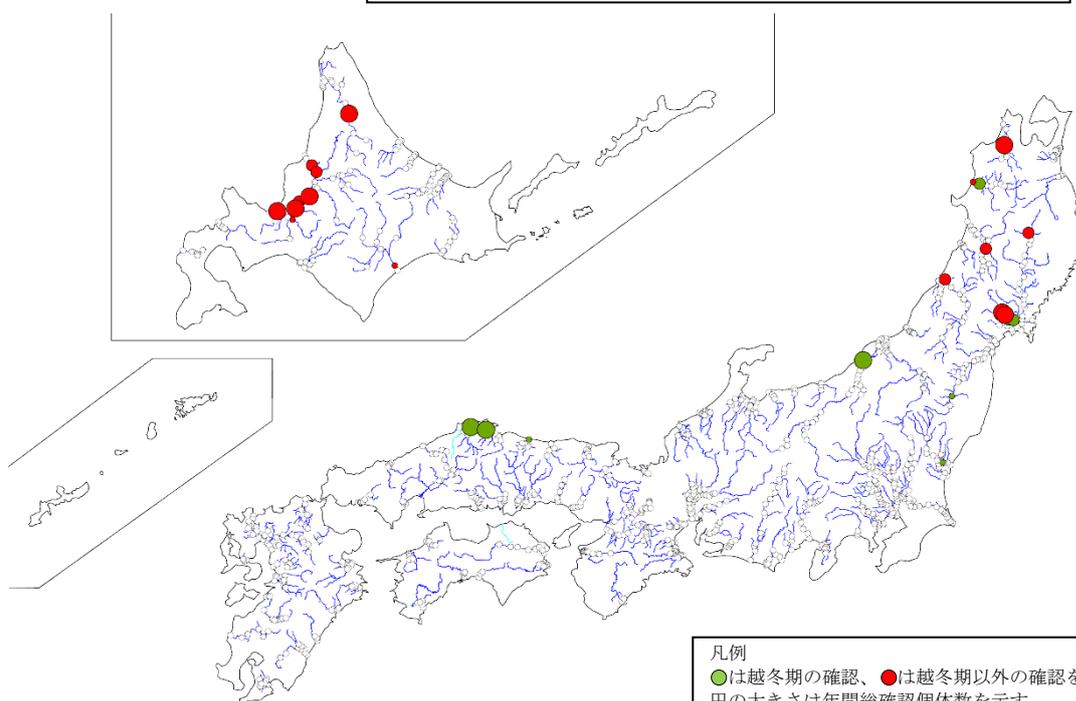
注2) 出典：WWF ホームページ/目撃者の証言：ガンの「渡り」が変わってゆく | 地球温暖化の目撃者 | 地球温暖化を防ぐ | WWF の活動 | WWF ジャパン



2 巡目調査 (平成 8～12 年度(1996～2000 年))



3 巡目調査 (平成 13～17 年度(2001～2005 年))

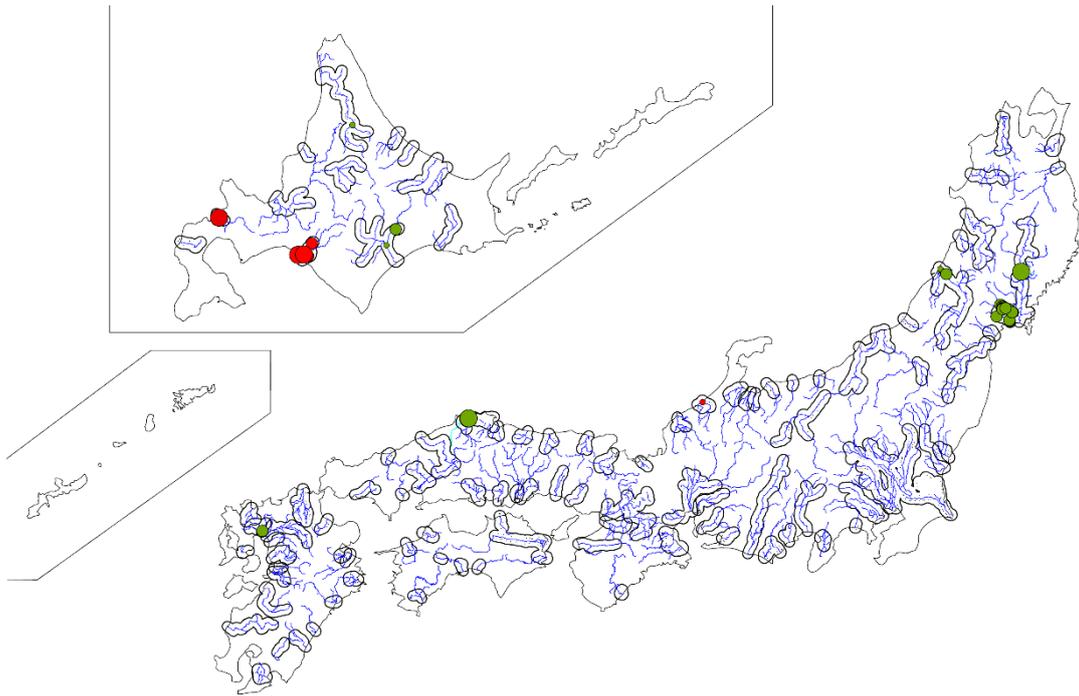


- 凡例
- は越冬期の確認、● は越冬期以外を確認を示す。
 - 円の大きさは年間総確認個体数を示す。
 - : 100 個体以上
 - : 10～99 個体
 - : 10 個体未満
 - : 未確認
 - (集団分布地、移動中の確認は含まない)

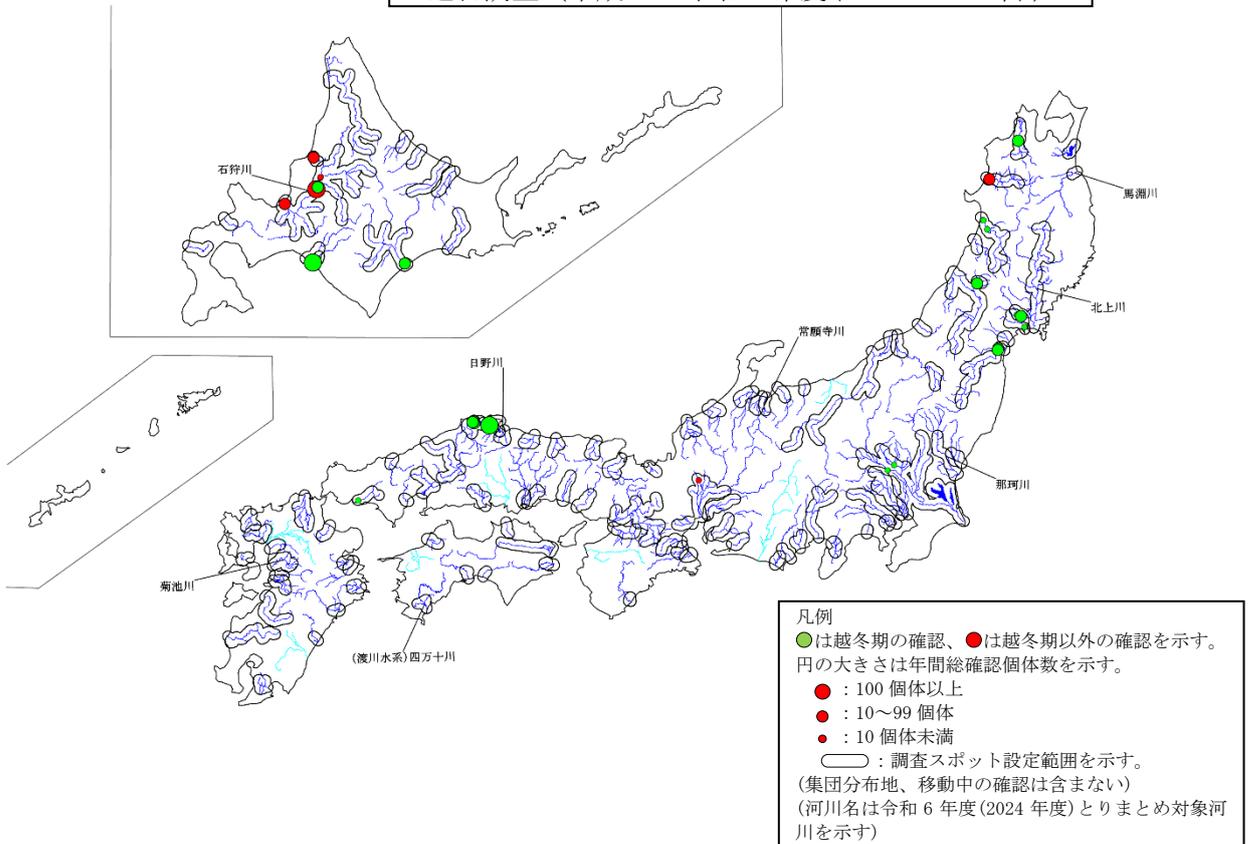
注 1) ー は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
 注 2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

図 4-23 マガンの確認地区 (2 巡目調査、3 巡目調査) (1/2)

4巡目調査（平成18～27年度（2006～2015年））



5巡目調査（平成28～令和6年度（2016～2024年））



凡例
 ●は越冬期の確認、●は越冬期以外の確認を示す。
 円の大きさは年間総確認個体数を示す。
 ● : 100 個体以上
 ● : 10～99 個体
 ● : 10 個体未満
 ○ : 調査スポット設定範囲を示す。
 (集団分布地、移動中の確認は含まない)
 (河川名は令和6年度(2024年度)とりまとめ対象河川を示す)

注) 5巡目調査は調査実施途中であり、—は、調査未実施の河川を示す。

図 4-23 マガンの確認スポット（4巡目調査、5巡目調査）（2/2）

・ 8 河川すべてで陸ガモの越冬を下流から上流まで広範囲で確認

日本に越冬のために渡ってくるカモ類のうち、河川や湖沼を主な生息場とする陸ガモは、温暖化の影響で、越冬地の北上や個体数の増加などの可能性が考えられています。今回とりまとめを行った8河川すべてで陸ガモの越冬を下流から上流まで広範囲で確認しました。

(資料掲載：4-47 ページ)

カモ類の多くは、冬期に日本各地の河川や湖沼、海などに渡来し、越冬します。カモ類は「陸ガモ」、「潜水ガモ」、「採魚ガモ」の3つに大別されます。陸ガモは水面に浮いている植物や種子を餌として陸上や水面で倒立して食べ、潜水ガモは浅い水底の生物を潜水して食べ、採魚ガモは水中で魚を追って食べるタイプです^{注1)}。このため、カモ類は結氷する水面では越冬できません。しかし、これまで結氷していた北方の河川や湖沼が温暖化などによって結氷しなくなることや、部分的にでも結氷しない箇所が多くなると、カモ類がその場にとどまるようになり、越冬地が北上することも考えられます。

ここでは、結氷しやすい浅い水面や水辺、水田などを主な餌場とする陸ガモ（対象種：ツクシガモ、オシドリ、オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、アメリカヒドリ、マガモ、アヒル、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、シマアジ、トモエガモ、コガモ）の越冬期の確認状況を整理しました。今回調査を行った8河川すべてで、陸ガモの越冬を下流から上流まで広範囲で確認しました。

一方、水面凍結の影響が出やすいと考えられる北海道地方の5巡目調査の越冬期の出現状況を整理したところ、北海道の越冬期に多く確認されたのは14種の陸ガモのうちマガモとコガモの2種でした。

そこで、北海道の越冬期のマガモとコガモの2～5巡目の出現状況を整理しました。

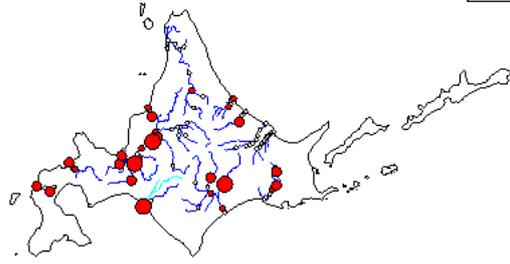
注1) 出典：山岸哲. 2003. ダムとカモ, ダム水源地ネット, 4月号, p5.

表 4-10 北海道地方の5巡目調査実施河川における陸ガモの確認状況

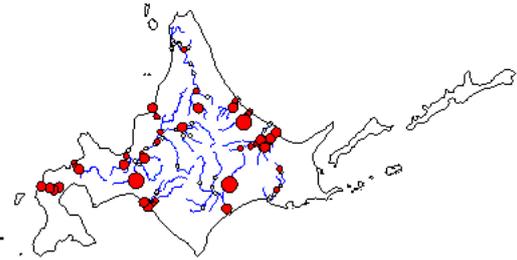
河川名	北海道地方												
	天塩川	渚滑川	湧別川	常呂川	網走川	留萌川	石狩川	尻別川	後志利別川	鶴川	沙流川	釧路川	十勝川
1 ツクシガモ													
2 オシドリ					14								
3 オカヨシガモ					48								
4 ヨシガモ							1					2	
5 ヒドリガモ			16	1	649		36			20			19
6 アメリカヒドリ													
7 マガモ	156	179	67	59	120		2,656	163	26	28		74	74
8 アヒル													
9 カルガモ					6		6		3				
10 ハシビロガモ					2		1						
11 オナガガモ				4			301					3	
12 シマアジ													
13 トモエガモ													
14 コガモ	40	12	189	17	106	2	501	6		39	32	1	63

※表中の数字は総確認個体数を示す。

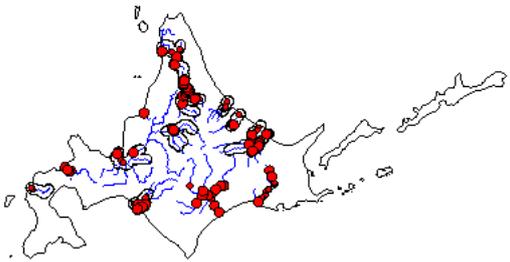
マガモ



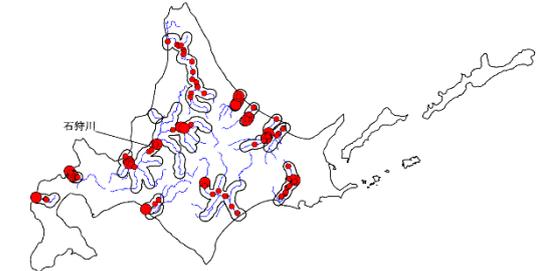
2 巡目調査 (平成 8～12 年度(1996～2000 年))



3 巡目調査 (平成 13～17 年度(2001～2005 年))

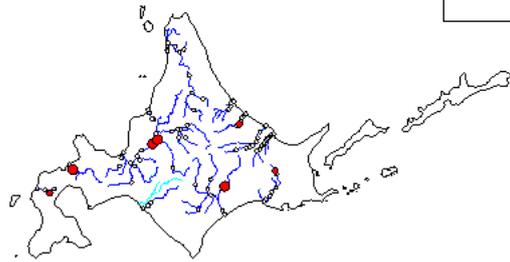


4 巡目調査 (平成 18～27 年度(2006～2015 年))

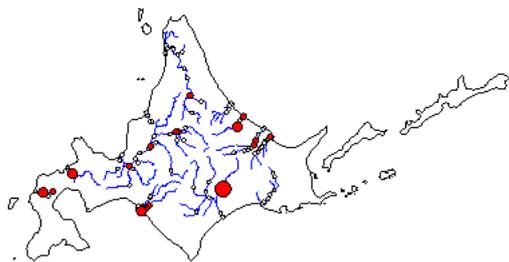


5 巡目調査 (平成 28～令和 6 年度(2016～2024 年))

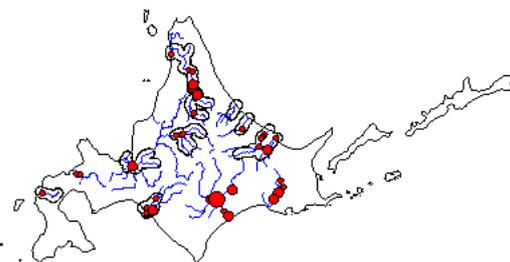
コガモ



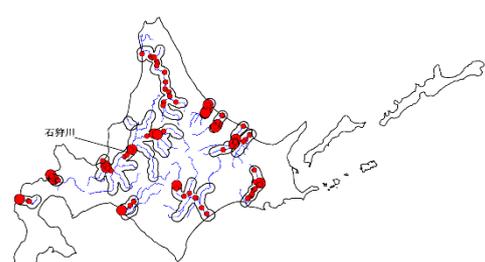
2 巡目調査 (平成 8～12 年度(1996～2000 年))



3 巡目調査 (平成 13～17 年度(2001～2005 年))



4 巡目調査 (平成 18～27 年度(2006～2015 年))



5 巡目調査 (平成 28～令和 6 年度(2016～2024 年))

2～3 巡目凡例

円の大きさは年間総確認個体数を示す。

● : 100 個体以上

● : 10～99 個体

● : 10 個体未満

○ : 未確認

(集団分布地、移動中の確認は含まない)

4～5 巡目凡例

円の大きさは年間総確認個体数を示す。

● : 100 個体以上

● : 10～99 個体

● : 10 個体未満

○ : スポット設定範囲を示す。

(集団分布地、移動中の確認は含まない)

注 1) ー は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

注 2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

注 3) 2～3 巡目はラインセンスおよび定点、4～5 巡目はスポットセンスによる調査。

図 4-24 陸ガモ (マガモ、コガモ) の越冬期における確認地区

マガモ、コガモの確認状況を比較すると、2巡目から3巡目にかけて、オホーツク海側の河川で増加していました。また、北海道地方の最北部の天塩川で、4巡目調査以降マガモの確認範囲が広がっていました。また、確認個体数についても巡目を追うごとに増加する傾向がみられます。これが温暖化の影響によるものかは分かりませんが、全国的な越冬状況について今後とも注目していくことが必要と考えられます。



4.5 注目すべき種の確認状況

近年、カワウがアユ、ニジマス、コイ科魚類等を食害し、内水面漁業に被害を与えている例が全国で見られます。ここでは、カワウの確認状況を整理しました。なお、定量的な分析を行うため、本章ではスポットセンサス調査の結果のみを用いて解析を行いました（4-58～59 ページ参照）。

【内水面漁業と関わりのある鳥（カワウ）の河川・ダムを含めた確認状況】 (鳥類調査)

・ **カワウを8河川すべてで確認**
 カワウは、今回とりまとめを行った8河川すべてで確認されました。
 (資料掲載：4-51～4-52 ページ、4-57～4-58 ページ)

表 4-11 1～5 巡目調査の確認河川・ダム数の比較

種類	1巡目	2巡目	3巡目	4巡目	5巡目
	(81河川) (81ダム)	(118河川) (83ダム)	(122河川) (96ダム)	(123河川) (112ダム)	(115河川) (111ダム)
カワウ	59河川 〔72.8%〕	98河川 〔83.1%〕	109河川 〔89.3%〕	119河川 〔96.7%〕	115河川 〔100.0%〕
	19ダム 〔23.5%〕	36ダム 〔43.4%〕	66ダム 〔68.8%〕	90ダム 〔80.4%〕	106ダム 〔95.5%〕

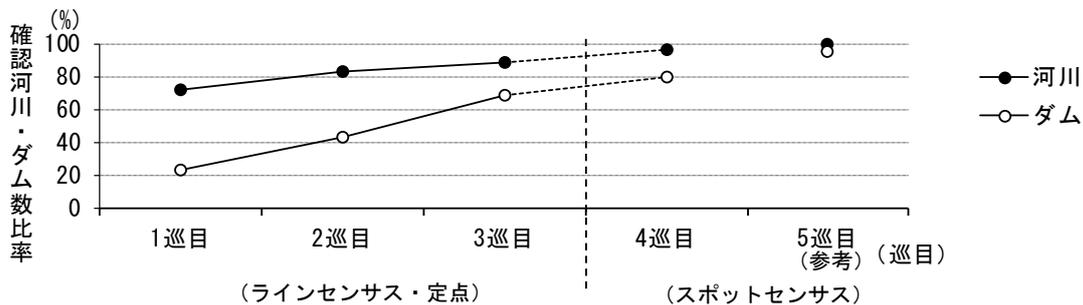


図 4-25 確認河川数比率の変化

- ※ 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。
- ※ 1～4 巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。
- ※ () 内は調査実施河川数、ダム数を示す。
- ※ [] 内は確認河川数、ダム数の調査実施河川数、ダム数に対する割合 (%) を示す。
- ※ 4 巡目からは、調査方法を調査地区対象のラインセンサス調査から河川全体の調査箇所における分布の確認を主としたスポットセンサス調査に変更した。
- ※ 5 巡目は調査途中であり、掲載しているデータは平成 28～令和 6 年度 (2016～2024 年度) の調査結果を示す。



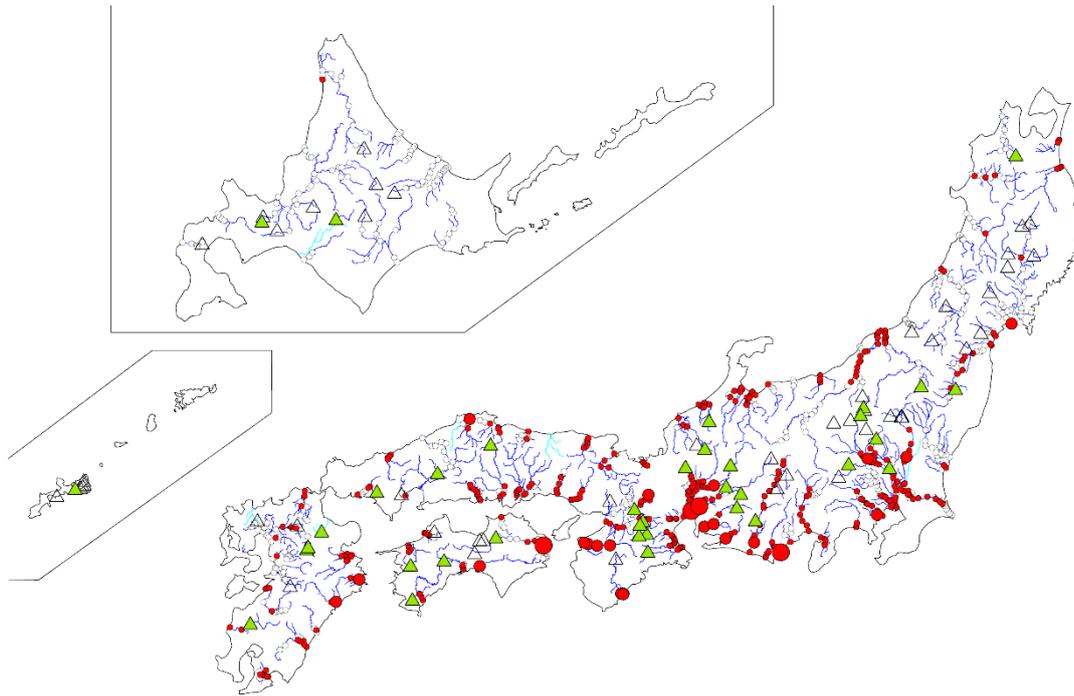
カワウは、内湾部や内陸の淡水、河川、湖沼などに生息し、その近くの林などで集団繁殖します。一年を通して群れで生活し、水かきのついた足を使い、尾を舵にして巧みに潜水し、魚類や甲殻類を捕らえます。放流されたアユ、ニジマス、コイ科魚類等を食害し、内水面漁業に被害を与えていることも知られています^{注1)}。

カワウは、今回とりまとめを行った 8 河川すべてで確認されました。確認範囲をみると、ほとんどの河川で河口から上流まで広範囲で確認されました。令和 6 年度(2024 年度)時点では、河川では 5 巡目で 100%、ダムでも 95.5%で確認されています。

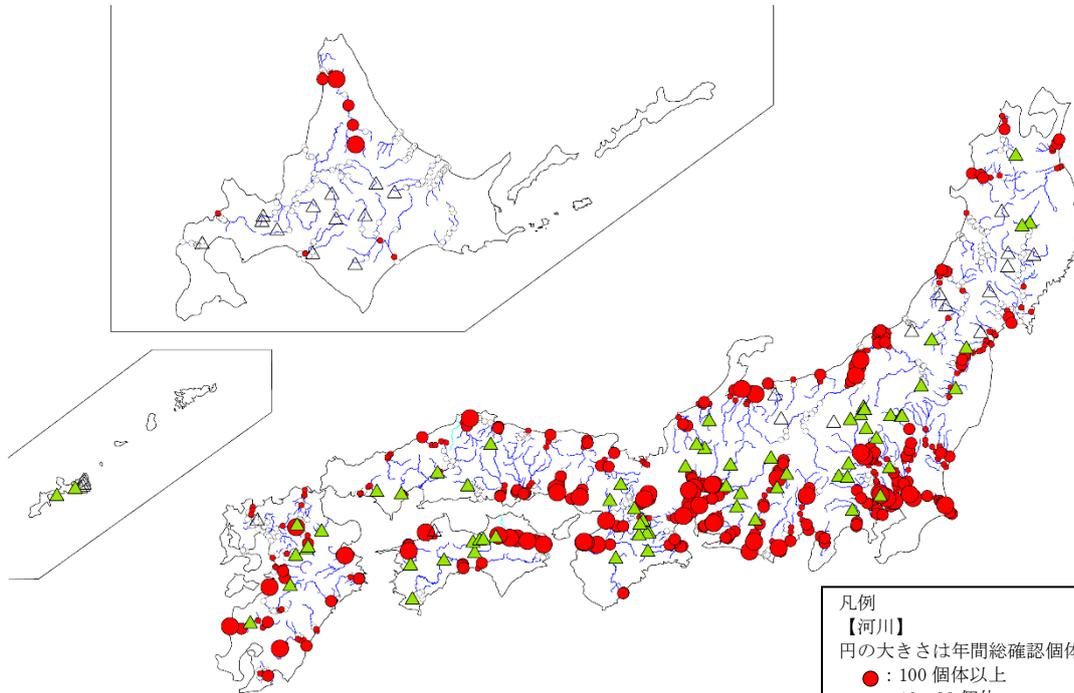
確認状況を河川、ダムを合わせて比較すると、1～5 巡目調査全体での調査実施河川、ダム数に占める確認された河川、ダム数の割合は、1 巡目調査から 5 巡目調査にかけて増加しています。1 巡目から 2 巡目、3 巡目にかけて、関東地方や中部地方を中心に南北に分布を広げ、本州以南のほとんどの河川に分布するようになり、確認個体数も増えました。北海道地方では 1 巡目、2 巡目は少数の河川、ダムで確認されていましたが、4 巡目に多くの河川、ダムで確認されるようになり、分布が拡大している傾向がうかがえました。

注1) 出典:特定鳥獣保護管理計画作成のためのガイドラインおよび保護管理の手引き(カワウ編)、2013、環境省

2 巡目調査 (平成 8～12 年度(1996～2000 年))



3 巡目調査 (平成 13～17 年度(2001～2005 年))

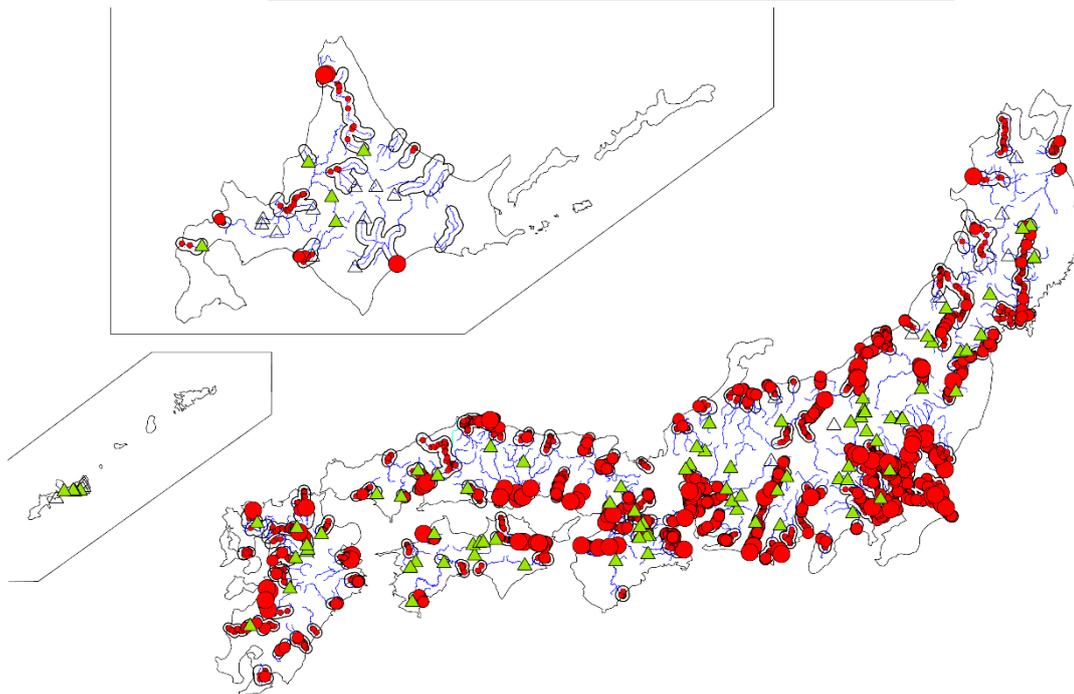


凡例
【河川】
 円の大きさは年間総確認個体数を示す。
 ● : 100 個体以上
 ● : 10～99 個体
 ● : 10 個体未満
 ○ : 未確認
 (集団分布地、移動中の確認は含まない)
【ダム湖】
 ▲ : 確認 △ : 未確認

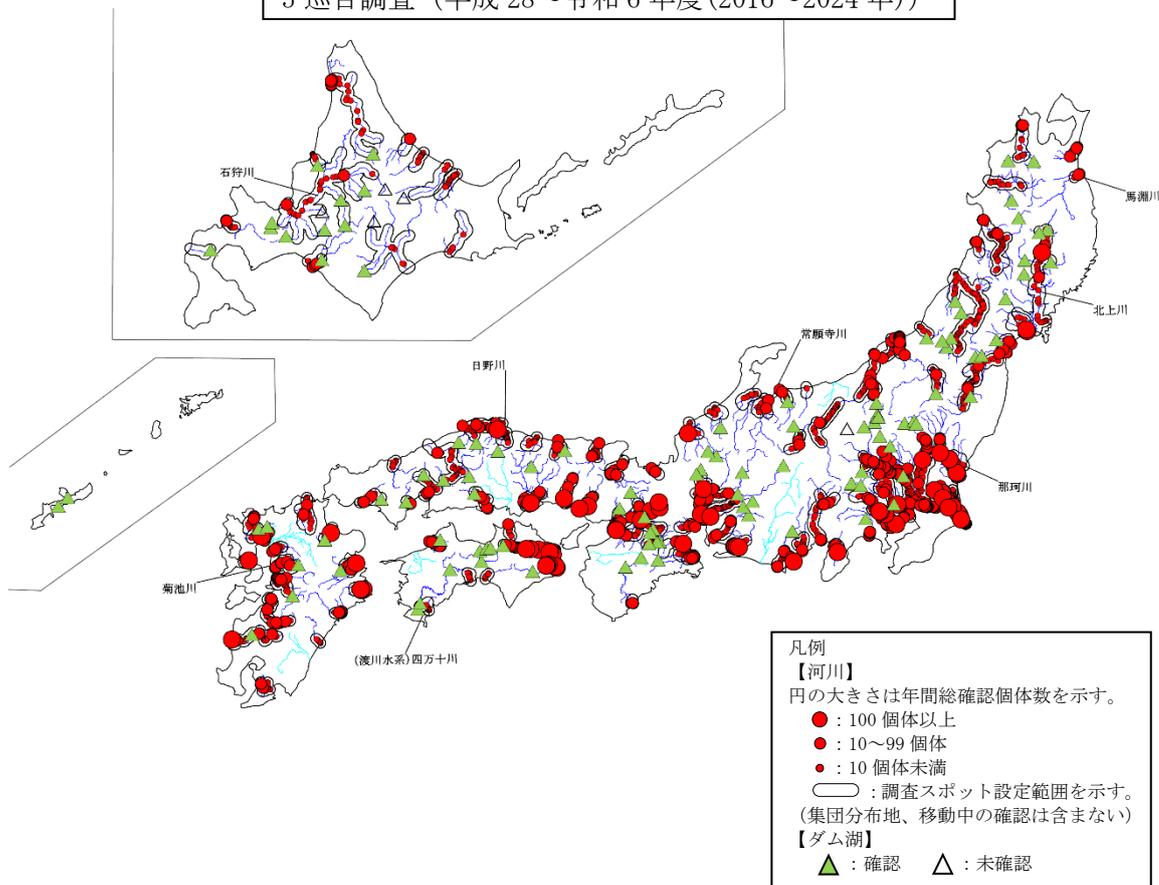
注 1) 〓 は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
 注 2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する

図 4-26 カワウの確認地区 (2 巡目調査、3 巡目調査) (1/2)

4 巡目調査（平成 18～27 年度(2006～2015 年)）



5 巡目調査（平成 28～令和 6 年度(2016～2024 年)）



注) 5 巡目調査は調査実施途中であり、
— は、調査未実施の河川を示す。

図 4-26 カワウの確認スポット（4 巡目調査、5 巡目調査）（2/2）

【生態系上位種のみサゴの河川・ダムを含めた確認状況】

(鳥類調査)

水辺の食物連鎖の上位種として、魚を主な餌とし水辺に関係の深いみサゴの確認状況を整理しました。なお、定量的な分析を行うため、本章ではスポットセンサス調査の結果のみを用いて解析を行いました(4-58~59 ページ参照)。

・ 猛禽類のみサゴを8河川のうち、8河川で確認

みサゴは、今回とりまとめを行った8河川のうち8河川全てで確認されました。おおむね河川の下流から上流まで広く分布していることが分かりました。

(資料掲載: 4-55~4-56 ページ、4-57~4-58 ページ)

表 4-12 1~5 巡目調査の確認河川・ダム数の比較

種類	1巡目	2巡目	3巡目	4巡目	5巡目
	(81河川) (81ダム)	(118河川) (83ダム)	(122河川) (96ダム)	(123河川) (112ダム)	(115河川) (111ダム)
みサゴ	54河川 〔66.7%〕	94河川 〔79.7%〕	113河川 〔92.6%〕	115河川 〔93.5%〕	104河川 〔90.4%〕
	31ダム 〔38.3%〕	52ダム 〔62.7%〕	66ダム 〔68.8%〕	84ダム 〔75.0%〕	83ダム 〔74.8%〕

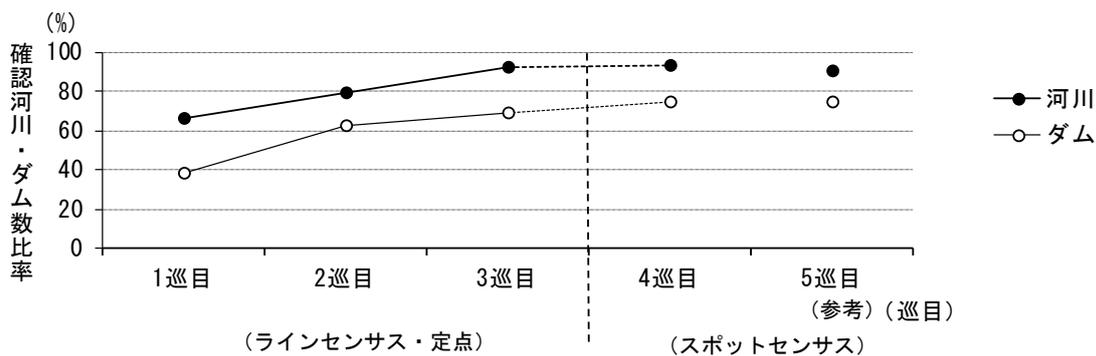


図 4-27 確認河川数比率の変化

- ※ 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。
- ※ 1~4 巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。
- ※ () 内は調査実施河川数、ダム数を示す。
- ※ [] 内は確認河川数、ダム数の調査実施河川数、ダム数に対する割合 (%) を示す。
- ※ 4 巡目からは、調査方法を調査地区対象のラインセンサス調査から河川全体の調査箇所における分布の確認を主としたスポットセンサス調査に変更した。
- ※ 5 巡目は調査途中であり、掲載しているデータは平成 28~令和 6 年度(2016~2024 年度)の調査結果を示す。

ミサゴ



北上川 (R6. 6. 13)

ミサゴ



日野川 (R6. 9. 4)

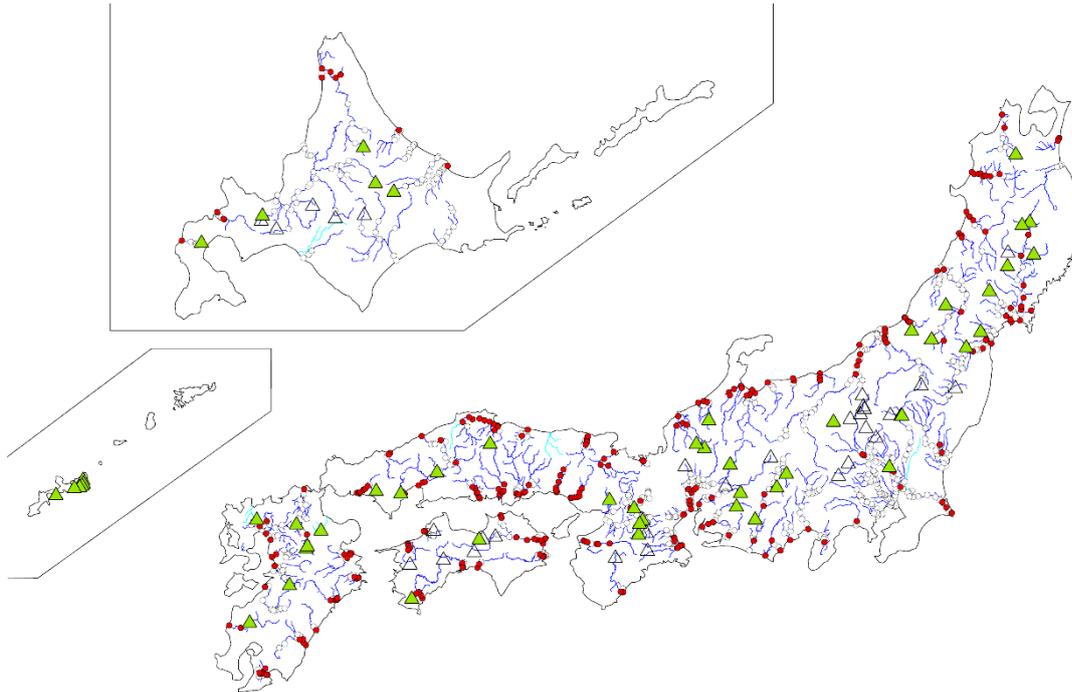
ミサゴは、魚を主な餌とし、河川や湖、海岸などに生息している猛禽類です^{注1)}。また、環境省版レッドリストでは準絶滅危惧種に指定されており、今回とりまとめを行った8河川のうち、北海道の石狩川、東北地方の馬淵川および北上川、関東地方の那珂川、北陸地方の常願寺川、中国地方の日野川、四国地方の（渡川水系）四万十川、九州地方の菊池川の8河川全てで確認されました。

ミサゴは、おおむね河川の下流から上流までくまなく分布しており、上流までミサゴが確認された河川は、魚の捕獲が行えるような広い水面や豊かな魚類資源を保った場所であるといえます。

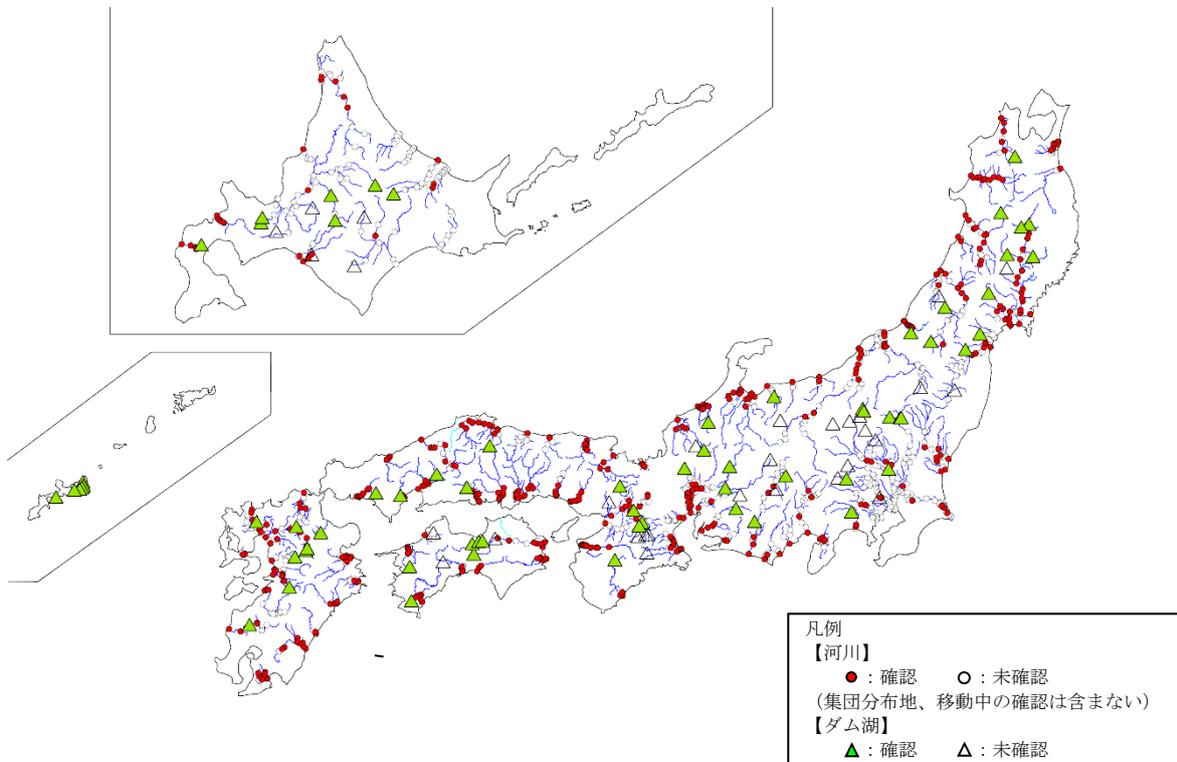
確認状況を河川、ダムを合わせて比較すると、1～3巡目ではミサゴの確認河川数、ダム数の割合が増加する傾向がみられました。4巡目では河川では大きな変化はみられませんでした。ダムでやや増加傾向にあり、内陸部へ分布が拡大している傾向がみられるため、今後も注視していく必要があると考えられます。

注1) 出典：原色日本野鳥生態図鑑〈陸鳥編〉、1995、保育社。

2 巡目調査 (平成 8～12 年度(1996～2000 年))



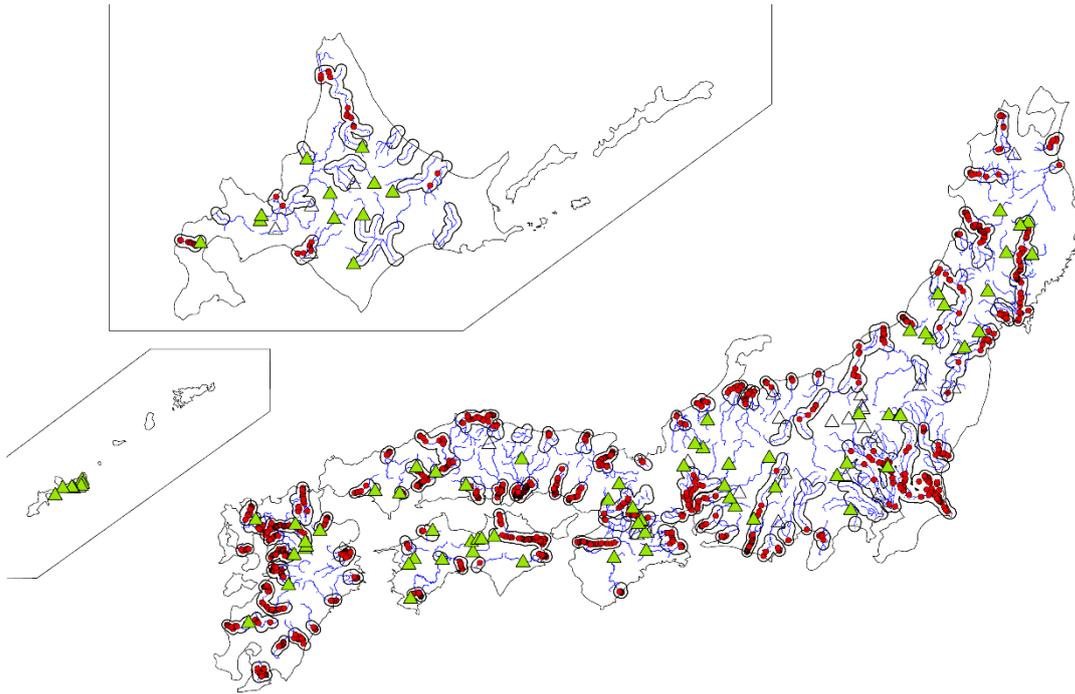
3 巡目調査 (平成 13～17 年度(2001～2005 年))



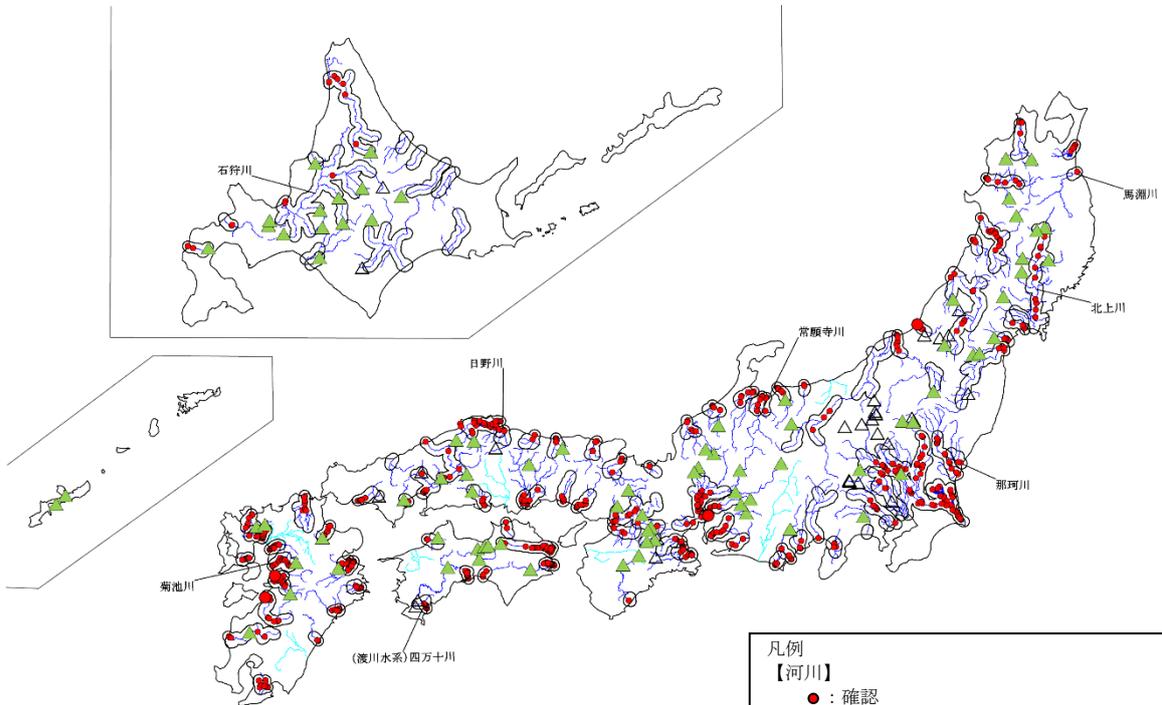
注 1) 〓 は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
 注 2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

図 4-28 ミサゴの確認地区 (2 巡目調査、3 巡目調査) (1/2)

4 巡目調査 (平成 18~27 年度(2006~2015 年))



5 巡目調査 (平成 28~令和 6 年度(2016~2024 年))



凡例
【河川】
 ● : 確認
 — : 調査スポットの設定範囲を示す。
 (集団分布地、移動中の確認は含まない)
【ダム湖】
 ▲ : 確認 △ : 未確認

注) 5 巡目調査は調査実施途中で、— は、調査未実施の河川を示す。

図 4-28 ミサゴの確認スポット (4 巡目調査、5 巡目調査) (2/2)

4.6 分析対象種の確認状況の経年比較

表 4-13 分析対象種の確認状況の経年比較 (1/2)

No.	地域	項目 種名	河川管理との関わり(河川環境に関わりの深い種)															生物多様性の関与(特定外来生物の確認状況)															気候変動					注目すべき種の確認状況					調査実施年度																			
			オオシホシギ					コシホシギ					コアシサシ					イカルサドリ					ガビサシ					ヒガガビサシ					オオガビサシ					ソコシホシギ					ニホシホシギ					マガン					漁業との関わり					生息地上位種				
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5					
7	北海道	石狩川	-	●	●	●	○	-	●	●	●	○	-	x	x	x	x	-	●	●	●	○	-	●	x	●	○	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	●	●	●	○	-	x	●	●	○	-	H9	H13	H26	R6					
16	東北	荒瀬川	●	●	●	●	○	●	●	●	x	○	●	x	x	x	x	●	x	●	●	○	x	●	●	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	H8	H11	H16	H26	R6				
17	東北	北上川	-	●	●	●	○	-	●	●	●	○	-	x	●	●	x	-	●	●	●	○	-	●	●	●	○	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	●	●	●	○	-	●	●	●	○	-	H9	H15	H26	R6					
27	関東	荒瀬川	●	●	●	●	○	x	x	●	x	x	●	x	●	●	x	●	●	●	○	x	●	●	●	○	x	x	●	●	○	-	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	H5	H8	H16	H26	R6				
47	北陸	常陸川	-	●	●	●	○	-	x	x	●	x	-	●	●	●	○	-	●	●	●	○	-	●	●	●	○	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	●	●	●	○	-	●	●	●	○	-	H9	H14	H24	R6

凡例 ●○:確認 (○は今回復取りまとの確認を示す)、x:未確認、-:1~4道目調査は河川環境データベースに調査データが未格納または未実施、5道目調査は調査未実施
 (薄字の河川は本年度とりまとの対象外の河川である。)
 注1) 1~4道目調査の手一歩は、種名等について真正名を、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。
 注2) 調査の継続性の観点から、経年比較のとりまとの対象は一律河川の基幹区間とし、指定区間および二級水系は対象外とした。
 注3) 1~5道目調査の区分については、原則として1道目調査:平成3~7年度、2道目調査:平成8~12年度、3道目調査:平成13~17年度、4道目調査:平成18~27年度、5道目調査:平成28~令和6年度としたが、各河川の実施状況のバランスに応じて適宜区切りを調整した。各調査項目における具体的な道目の区切りは調査実施年度の欄に記した。
 注4) スポット調査のみの確認状況を示しており、集積調査や他種調査などの付随する調査は省いている。

